

事務事業評価シート(令和3年度事務事業)

シートNo.	0332101	事務事業名	下町・西福童16号線道路改良事業(4期事業)(三沢・西福童線)			部・課・係	都市建設部	都市整備課	道路係
事業No.	J004324	開始年度	平成28年度	終了予定年度	-	施策コード	P1021	作成責任者	都市整備課長

事業の目的	本路線には病院や店舗等が隣接しており、生活道路としても重要な幹線道路である。また、物流車両が非常に多く、朝夕を中心に渋滞が発生しているとともに、歩道がなく危険な状態である。 市西部地区を南北に縦断する重要な幹線道路(都市計画道路)として整備することで、交通渋滞の解消や歩行者等の安全を確保し、道路ネットワークを構築する。								予算額・ 執行額 (単位:千円)	予算 状況		R02年度	R03年度						
											当初予算	33,000	88,200						
											補正予算	▲ 31,092	35,949						
											前年度から繰越	164,978							
											翌年度へ繰越		▲ 45,460						
事業概要	本路線は国道500号から北へ延長325m(幅員19m)の道路整備を行うものである。 道路利用者が安全で快適に通行できるよう本事業を計画しており、都市の骨格を形成する都市計画道路である。 道路拡幅となることから、権利者の方より道路用地を取得し、道路工事を行う。 平成29年度より、社会資本整備総合交付金を活用(補助率50%)								予算内訳 (単位:千円)	歳入予算	R02年度	R03年度	R03年度の主な収入内訳(名称等)						
											国庫支出金	82,794	39,344		社会資本整備総合交付金				
											県支出金								
											使用料・手数料								
											分担金・負担金等								
根拠法令、 関係計画、 通知等	土地収用法、道路法、道路構造令、都市計画法								投入工数 (単位:人)	歳出予算	R02年度	R03年度	R03年度の主な使途						
											委託料	1,298							
											公有財産購入費	7,934	23,868	道路用地購入費					
											補償費	157,654	53,703	物件移転補償費					
											工事請負費		1,118	道路改良工事					
活動目標及び 活動実績1 (アウトプット)	活動指標	道路整備(事業進捗)率 (事業費ベース)		単位	R02年度	R03年度	R04年度 活動見込	R05年度 活動見込	計	R02年度	R03年度	総費用(千円)							
					活動実績	%	27	37					人件費合計(千円)	5,920	14,800				
					当初見込	%	27	37		50	73		総費用(千円)	172,804	93,488				
					活動実績	%	26	45					人件費等の修正(千円)						
					当初見込	%	26	46		63	63		総費用(千円)※人件費等修正後	172,804	93,488				
活動目標及び 活動実績2 (アウトプット)	活動指標	道路用地取得率		単位	R02年度	R03年度	R04年度 活動見込	R05年度 活動見込	計	R02年度	R03年度	総費用(千円)							
					活動実績	%	26	45					人件費合計(千円)	5,920	14,800				
					当初見込	%	26	46		63	63		総費用(千円)	172,804	93,488				
					活動実績	%	26	46		63	63		人件費等の修正(千円)						
					当初見込	%	26	46		63	63		総費用(千円)※人件費等修正後	172,804	93,488				
単位当たり コスト	算出根拠			単位	R02年度	R03年度			計	R02年度	R03年度	総費用(千円)							
					X:総事業費(単位:千円) Y:整備完了延長(単位:m)	千円				-	-		人件費合計(千円)	5,920	14,800				
					計算式	X/Y				219,717/0	298,405/0		総費用(千円)	172,804	93,488				
					成果目標	歩道整備率					単位		R02年度	R03年度	中間目標 年度	目標最終年度 年度	人件費等の修正(千円)		
					成果指標	歩道整備率					成果実績		%	0	0	-	100	総費用(千円)※人件費等修正後	172,804
成果目標及び 成果実績1 (アウトカム)	成果指標	歩道整備率		単位	R02年度	R03年度	R04年度 活動見込	R05年度 活動見込	計	R02年度	R03年度	総費用(千円)							
					目標値	%	0	0		-	100		人件費合計(千円)	5,920	14,800				
					達成度	%	0	0		-	-		総費用(千円)	172,804	93,488				
					補足説明	(計算式) 当該年度までの歩道整備延長／事業延長								人件費等の修正(千円)					
					根拠として用いた 統計・データ名(出典)	-								総費用(千円)※人件費等修正後	172,804	93,488			
成果目標及び 成果実績2 (アウトカム)	成果指標			単位	R02年度	R03年度	中間目標 年度	目標最終年度 年度	計	R02年度	R03年度	総費用(千円)							
					成果実績								人件費合計(千円)	5,920	14,800				
					目標値								総費用(千円)	172,804	93,488				
					達成度	%							人件費等の修正(千円)						
					補足説明									総費用(千円)※人件費等修正後	172,804	93,488			
成果目標及び 成果実績2 (アウトカム)	根拠として用いた 統計・データ名(出典)				単位	R02年度	R03年度	中間目標 年度	目標最終年度 年度	計	R02年度	R03年度	総費用(千円)						
						成果実績								人件費合計(千円)	5,920	14,800			
						目標値								総費用(千円)	172,804	93,488			
						達成度	%							人件費等の修正(千円)					
						補足説明									総費用(千円)※人件費等修正後	172,804	93,488		

シートNo.	0332101	事務事業名	下町・西福童16号線道路改良事業(4期事業)(三沢・西福童線)			部・課・係	都市建設部	都市整備課	道路係
事業No.	J004324	開始年度	平成28年度	終了予定年度	-	施策コード	P1021	作成責任者	都市整備課長

項 目			令和3年度 事務事業担当課による点検・改善			<参考>令和2年度 事務事業担当課による点検・改善		
			評価	評価に関する説明		評価	評価に関する説明	
事業の必要性	事業の目的は市民や社会のニーズを的確に反映しているか。		○	小都市の幹線道路網は、市を南北に縦断する幹線道路が乏しい実態がある。近年のベッドタウン化の進行により、自動車交通量は増加傾向であり、交通渋滞の慢性化、沿道環境の悪化等、市民のニーズも高まっている。		○	小都市の幹線道路網は、市を南北に縦断する幹線道路が乏しい実態がある。近年のベッドタウン化の進行により、自動車交通量は増加傾向であり、交通渋滞の慢性化、沿道環境の悪化等、市民のニーズも高まっている。	
	地域、民間等に委ねることができない事業なのか。		○	公共事業であり、用地取得～工事までの一連の事務は、公平性・透明性を確保する必要があるため、行政である市が実施する。		○	公共事業であり、用地取得～工事までの一連の事務は、公平性・透明性を確保する必要があるため、行政である市が実施する。	
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。		○	交通要衝である小都市の特徴をさらに生かすために、都市の骨格を形成する都市計画道路の整備を実施することで、市民生活の安全性・利便性向上を図ることができる。		○	交通要衝である小都市の特徴をさらに生かすために、都市の骨格を形成する都市計画道路の整備を実施することで、市民生活の安全性・利便性向上を図ることができる。	
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。		○	令和3年度は、地先境界ブロック設置工事を随意契約により3業者から見積もり徴収を実施し、競争性が確保された。		○	令和2年度は、営業再調査業務委託を指名競争入札により実施しており、競争性が確保された。	
	一般競争入札、指名競争入札又は随意契約(プロポーザル)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。		無			無		
	競争性のない随意契約となったものはないか。		無			無		
	受益者との負担関係は妥当であるか。		-	道路は特定の人が利用するものでなく、全ての人が利用する公共施設である。		-	道路は特定の人が利用するものでなく、全ての人が利用する公共施設である。	
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。		-	用地取得や建物等移転補償など、その路線(場所)ごとに金額が大きく異なるため、一概にコスト比較はできない。		-	用地取得や建物等移転補償など、その路線(場所)ごとに金額が大きく異なるため、一概にコスト比較はできない。	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		○	令和3年度は、主に道路用地を取得しており、道路整備を行うために必要なものである。		○	令和2年度は、道路用地を取得しており、道路整備を行うために必要なものである。	
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)		-			-		
	繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)		○	土地所有者、物件所有者に事業協力をいただきながら、事業執行を図っている。		○	土地所有者、物件所有者に事業協力をいただきながら、事業執行を図っている。	
事業の有効性	その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。		△	事業スケジュールが補助金内示状況により、明確に示していない中で、土地所有者、物件所有者に事業協力をいただきながら、事業執行を図っている。		△	事業スケジュールが補助金内示状況により、明確に示していない中で、土地所有者、物件所有者に事業協力をいただきながら、事業執行を図っている。	
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。		○	令和3年度に予定していた道路用地取得ができた。		○	令和2年度に予定していた道路用地取得ができた。	
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。		-	他に考えられる手法はない。		-	他に考えられる手法はない。	
	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。		○	令和3年度は道路用地を取得している段階であり、歩道整備にはまだ至っていない。		○	令和2年度は道路用地を取得している段階であり、歩道整備にはまだ至っていない。	
関連事業	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。		-	令和3年度は道路用地を取得している段階であり、これから先に道路工事を実施し、開通となるため、現時点での評価は困難である。		-	令和2年度は道路用地を取得している段階であり、これから先に道路工事を実施し、開通となるため、現時点での評価は困難である。	
	関連する事業がある場合、他課等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を右に記載)		-			-		
	課名							
	連番							
点検・改善結果								
			点検結果	本道路事業は事業規模も大きく、複数年の期間をかけて整備を行うものであることから、単年での評価は困難である。令和3年度は計画的な用地取得が実施できたため、引き続き計画的な事業実施に取り組む。		本道路事業は事業規模も大きく、複数年の期間をかけて整備を行うものであることから、単年での評価は困難である。令和2年度は計画的な用地取得が実施できたため、引き続き計画的な事業実施に取り組む。		
			改善の方向性	道路をつくるためには、用地を取得する必要があることから、計画的な事業計画に基づき、事業を円滑に進めていくことが最重要となる。		道路をつくるためには、用地を取得する必要があることから、計画的な事業計画に基づき、事業を円滑に進めていくことが最重要となる。		

事務事業評価シート(令和3年度事務事業)

シートNo.	0332102	事務事業名	八坂・下西鯉坂114号線道路整備事業			部・課・係	都市建設部	都市整備課	道路係
事業No.	J004441	開始年度	平成30年度	終了予定年度	令和3年度	施策コード	P1021	作成責任者	都市整備課長

事業の目的		県道二森石崎線と市道幹線を結ぶ重要な準幹線道路の役割を担う道路として現道を拡幅し、安全性の向上、地域交通の円滑化を図る。							予算額・ 執行額 (単位:千円)	予算 状況	R02年度		R03年度		
事業概要		八坂・下西鯉坂114号線道路整備事業 L=120m、W=6.0m									当初予算		17,000	0	
											補正予算		▲ 7,678	29,770	
											前年度から繰越				
											翌年度へ繰越			▲ 21,230	
											予備費等				
											計		9,322	8,540	
根拠法令、 関係計画、 通知等		道路法、狭あい道路整備等促進事業							執行額		9,321	8,540			
									執行率(%)		99.99%	100%			
活動目標及び 活動実績1 (アウトプット)		活動指標	整備済延長 (計画延長L=120m)		単位	R02年度	R03年度	R04年度 活動見込	R05年度 活動見込	予算内訳 (単位:千円)	歳入予算		R02年度	R03年度	R03年度の主な収入内訳(名称等)
											国庫支出金		3,758	4,270	社会資本整備総合交付金
											県支出金				
											使用料・手数料				
分担金・負担金等															
財産収入															
繰入金															
諸収入															
繰越金															
地方債		4,800	3,800	公共事業等債											
一般財源		764	470												
計		9,322	8,540												
活動目標及び 活動実績2 (アウトプット)		活動指標	-		単位	R02年度	R03年度	R04年度 活動見込	R05年度 活動見込		歳出予算		R02年度	R03年度	R03年度の主な使途
											役務費		0	0	
											委託料		0	0	
											工事請負費		7,468	8,540	
単位当たり コスト		-	算出根拠		単位	R02年度	R03年度	中間目標 年度	目標最終年度 年度		公有財産購入費		0	0	
											補償、補填及び賠償金		1,854	0	
											計		9,322	8,540	
成果目標及び 成果実績1 (アウトカム)		成果目標	-		単位	R02年度	R03年度	中間目標 年度	目標最終年度 年度	投入工数 (単位:人)	正職員		0.2	0.2	
											再任用		0	0	
											会計年度月額		0	0	
											会計年度日額		0	0	
計		0.20	0.20												
人件費合計(千円)		1,480	1,480												
成果目標及び 成果実績2 (アウトカム)		成果指標			単位	R02年度	R03年度	中間目標 年度	目標最終年度 年度	総費用(千円)		10,801	10,020		
										人件費等の修正(千円)					
										総費用(千円)※人件費等修正後		10,801	10,020		
成果目標及び 成果実績1 (アウトカム)		補足説明	根拠として用いた 統計・データ名(出典)												
成果目標及び 成果実績2 (アウトカム)		成果目標			単位	R02年度	R03年度	中間目標 年度	目標最終年度 年度						
成果目標及び 成果実績1 (アウトカム)		成果指標			単位	R02年度	R03年度	中間目標 年度	目標最終年度 年度						
成果目標及び 成果実績2 (アウトカム)		補足説明	根拠として用いた 統計・データ名(出典)												

シートNo.	0332102	事務事業名	八坂・下西鯉坂114号線道路整備事業			部・課・係	都市建設部	都市整備課	道路係
事業No.	J004441	開始年度	平成30年度	終了予定年度	令和3年度	施策コード	P1021	作成責任者	都市整備課長

項 目			令和3年度 事務事業担当課による点検・改善		<参考>令和2年度 事務事業担当課による点検・改善	
			評価	評価に関する説明	評価	評価に関する説明
事業の必要性	事業の目的は市民や社会のニーズを的確に反映しているか。		○	地元要望でもあり、県道二森石崎線と市道幹線を結ぶ重要な準幹線道路の役割を担う道路として現道を拡幅し、安全性の向上、地域交通の円滑化を図ることとなるため、ニーズを反映している。	○	地元要望でもあり、県道二森石崎線と市道幹線を結ぶ重要な準幹線道路の役割を担う道路として現道を拡幅し、安全性の向上、地域交通の円滑化を図ることとなるため、ニーズを反映している。
	地域、民間等に委ねることができない事業なのか。		○	小郡市が管理する市道の拡幅事業であり、市で実施する必要がある。	○	小郡市が管理する市道の拡幅事業であり、市で実施する必要がある。
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。 政策体系の中で優先度の高い事業か。		○	地元要望でもあり、県道二森石崎線と市道幹線を結ぶ重要な準幹線道路の役割を担う道路として現道を拡幅し、安全性の向上、地域交通の円滑化を図ることとなるため、適切な事業である。	○	地元要望でもあり、県道二森石崎線と市道幹線を結ぶ重要な準幹線道路の役割を担う道路として現道を拡幅し、安全性の向上、地域交通の円滑化を図ることとなるため、適切な事業である。
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。		○	適正な入れにより業者が選定され、工事を実施している。	○	適正な入れにより業者が選定され、工事を実施している。
	一般競争入札、指名競争入札又は随意契約（プロポーザル）による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。		無		無	
	競争性のない随意契約となったものはないか。		無		無	
	受益者との負担関係は妥当であるか。		○	小郡市が管理する市道の拡幅事業あり、市で実施する必要がある。	○	小郡市が管理する市道の拡幅事業あり、市で実施する必要がある。
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。		-	整備内容が、道路整備・農業用水路の付替えを同一事業で実施しており、各年の整備内容が異なるため適切なコストが算出できない。	-	整備内容が、道路整備・農業用水路の付替えを同一事業で実施しており、各年の整備内容が異なるため適切なコストが算出できない。
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		○	県道二森石崎線と市道幹線を結ぶ重要な準幹線道路の役割を担う道路として現道を拡幅し、安全性の向上、地域交通の円滑化を図るものに限定している。	○	県道二森石崎線と市道幹線を結ぶ重要な準幹線道路の役割を担う道路として現道を拡幅し、安全性の向上、地域交通の円滑化を図るものに限定している。
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。（理由を右に記載）		-	特になし。	-	特になし。
	繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。（理由を右に記載）		○	適正工期確保のためであり、妥当である。	-	特になし。
事業の有効性	その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。		○	工事実施において、工事条件・工法・施工内容などにより適切に行われている。	○	工事実施において、工事条件・工法・施工内容などにより適切に行われている。
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。		△	国庫補助事業の内示率に応じ事業を進めており、当初予定より事業が遅延している。	△	国庫補助事業の内示率に応じ事業を進めており、当初予定より事業が遅延している。
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。		○	工事実施において、工事条件・工法・施工内容などにより適切に行われている。	○	工事実施において、工事条件・工法・施工内容などにより適切に行われている。
	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。		-	事業完了により、成果が図られるものであるため、評価することは適切ではない	-	事業完了により、成果が図られるものであるため、評価することは適切ではない
関連事業	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。		○	整備済み区間について、安全性の向上が図られている。	○	整備済み区間について、安全性の向上が図られている。
	関連する事業がある場合、他課等と適切な役割分担を行っているか。（役割分担の具体的な内容を右に記載）					
	課名					
	連番					
	事業名					
点検・改善結果	点検結果		本事業は、当初完成予定より遅延していたが、現在は、令和4年度完成予定に向け事業を進めている。事業完了後は、現道を拡幅し、安全性の向上、地域交通の円滑化を図られる。		当初予定より事業が遅延しているため、本事業を早期に完了させ、現道を拡幅し、安全性の向上、地域交通の円滑化を図る必要がある。	
	改善の方向性		特になし。		特になし。	

事務事業評価シート(令和3年度事務事業)

シートNo.	0332103	事務事業名	味坂スマートIC設置事業			部・課・係	都市建設部	都市整備課	道路係
事業No.	J004490	開始年度	平成29年度	終了予定年度	令和6年度	施策コード	P1021	作成責任者	スマートIC統括主幹

1／2ページ

事業の目的	周辺道路の渋滞緩和、産業・住民の利便性向上、周辺開発による雇用創出、大災害時の救急・救命活動の向上								予算額・ 執行額 (単位:千円)	予算 状況	当初予算	73,454	100,444				
事業概要	九州自動車道の鳥栖JCT～久留米IC間にスマートICを設置する 令和6年度事業完了を目標 社会資本整備総合交付金を活用(補助率50%)										補正予算	35,506	25,210				
											前年度から繰越	32,500	3,205				
											翌年度へ繰越	▲ 3,205					
											予備費等						
											計	138,255	128,859				
											執行額	138,035	126,462				
根拠法令、 関係計画、 通知等									執行率(%)	99.8%	98%						
									歳入予算	R02年度	R03年度	R03年度の主な収入内訳(名称等)					
									国庫支出金	26,734	1,601						
									県支出金								
									使用料・手数料								
									分担金・負担金等	14,342							
活動目標及び 活動実績1 (アウトプット)	活動指標	事業進捗率		単位	R02年度	R03年度	R04年度 活動見込	R05年度 活動見込	予算内訳 (単位:千円)	財産収入							
			活動実績	%	27	50				繰入金	5,654	14,944					
			当初見込	%	27	46	64			諸収入							
	活動指標	—		単位	R02年度	R03年度	R04年度 活動見込	R05年度 活動見込		繰越金							
										活動実績					地方債	85,923	108,300
										当初見込					一般財源	5,382	4,014
活動目標及び 活動実績2 (アウトプット)	活動指標	—		単位	R02年度	R03年度	R04年度 活動見込	R05年度 活動見込	計	138,035	128,859						
									単位当たり コスト	算出根拠		単位	R02年度		R03年度	R03年度の主な使途	
										単位当たり コスト							
	計算式	X/Y															
	単位当たり コスト	—			単位	R02年度	R03年度	中間目標 年度	目標最終年度 R06 年度	役務費	594						
										委託料	33,370						
用地買収費										97,498	2,214						
負担金、補助及び交付金		1,065	3,008														
移転補償金		5,508	991														
工事請負費			122,646														
成果目標及び 成果実績1 (アウトカム)	成果目標	利便性の向上		単位	R02年度	R03年度			計	138,035	128,859						
	成果指標	SIC利用交通量		成果実績	台／日	－			正職員	2	2						
				目標値	台／日	－			再任用	0	0						
				達成度	%	－			会計年度月額	0	0						
	補足説明	未供用(R6年度事業完了を目標)								会計年度日額	0	0					
	根拠として用いた 統計・データ名(出典)										計	2.00	2.00				
成果目標及び 成果実績2 (アウトカム)	成果目標	—		単位	R02年度	R03年度	中間目標 年度	目標最終年度 年度	人件費合計(千円)	14,800	14,800						
									成果実績						総費用(千円)	152,835	141,262
									目標値						人件費等の修正(千円)		
	達成度	%				総費用(千円)※人件費等修正後	152,835	141,262									
	補足説明	根拠として用いた 統計・データ名(出典)															

シートNo.	0332103	事務事業名	味坂スマートIC設置事業			部・課・係	都市建設部	都市整備課	道路係
事業No.	J004490	開始年度	平成29年度	終了予定年度	令和6年度	施策コード	P1021	作成責任者	スマートIC統括主幹

項 目			令和3年度 事務事業担当課による点検・改善			<参考>令和2年度 事務事業担当課による点検・改善		
			評価	評価に関する説明		評価	評価に関する説明	
事業の必要性	事業の目的は市民や社会のニーズを的確に反映しているか。		○	九州自動車道との連携が図られていないため、産業・住民生活の利便性に欠けている状況があり、市民や社会のニーズがある。		○	九州自動車道との連携が図られていないため、産業・住民生活の利便性に欠けている状況があり、市民や社会のニーズがある。	
	地域、民間等に委ねることができない事業なのか。		○	事業者が限られている。		○	事業者が限られている。	
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。 政策体系の中で優先度の高い事業か。		○	本市の土地利用計画を推進するためには必要な施設である。		○	本市の土地利用計画を推進するためには必要な施設である。	
	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。 一般競争入札、指名競争入札又は随意契約（プロポーザル）による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。 競争性のない随意契約となったものはないか。		○ 無 無	スマートIC本体と密接不可分な関係にあるため、西日本高速道路㈱へ事務委託を行う。		○ 無 無	スマートIC本体と密接不可分な関係にあるため、西日本高速道路㈱へ事務委託を行う。	
事業の効率性	受益者との負担関係は妥当であるか。		-			-		
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。		-			-		
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		○	スマートIC設置に伴い必要となる道路、水路等の付替え工事に限定している。		○	スマートIC設置に伴い必要となる道路、水路等の付替え工事に限定している。	
	不用率が大い場合、その理由は妥当か。（理由を右に記載）		-			-		
	繰越額が大い場合、その理由は妥当か。（理由を右に記載）		○	関係機関と調整しながら効率的な事業執行を図っている。		○	関係機関と調整しながら効率的な事業執行を図っている。	
	その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。		○	関係機関と調整しながら効率的な事業執行を図っている。		○	関係機関と調整しながら効率的な事業執行を図っている。	
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。		○	関係機関と調整しながら効率的な事業執行を図っている。		○	開通目標に向け、関係機関と調整しながら効率的な事業執行を図っている。	
事業の有効性	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。		-			-		
	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。		○	令和6年度事業完了に向けた事業進捗を図っている。		○	令和5年度開通に向けた事業進捗を図っている。	
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。		-			-		
	関連する事業がある場合、他課等と適切な役割分担を行っているか。（役割分担の具体的な内容を右に記載）							
関連事業	課名							
	連番							
	事業名							
点検・改善結果	点検結果			・県境を跨ぎ設置するスマートIC設置事業は、西日本高速道路㈱、福岡県、佐賀県、鳥栖市及び小郡市が一体となり、協議調整を図り事業執行を行うものである。 ・工事実施においては、地元調整及び各機関の連携なしに実施不可である。 ・各発注機関の工事個所が同一であり、個々のトラブルが事業全体に影響する。 ・工事全体が完了しないと成果実績が表れないが、現時点の工程は概ね計画どおり。			・県境を跨ぎ設置するスマートIC設置事業は、西日本高速道路㈱、福岡県、佐賀県、鳥栖市及び小郡市が一体となり、協議調整を図り事業執行を行うものである。 ・工事実施においては、地元調整及び各機関の連携なしに実施不可である。 ・各発注機関の工事個所が同一であり、個々のトラブルが事業全体に影響する。 ・工事全体が完了しないと成果実績が表れないが、現時点の工程は概ね計画どおり。	
	改善の方向性			引き続き関係機関との調整を図り、早期に成果が表れるよう事業執行する。			引き続き関係機関との調整を図り、早期に成果が表れるよう事業執行する。	

事務事業評価シート(令和3年度事務事業)

シートNo.	0332104	事務事業名	団地側溝整備事業		部・課・係	都市建設部	都市整備課	道路係
事業No.	J004306	開始年度	平成28年度	終了予定年度	終了予定なし	施策コード	P1021	作成責任者 都市整備課長

事業の目的	古い団地内側溝の有蓋化を実施し、交通の安全性の向上を図り、更に大雨時においても、道路冠水の緩和を図り、安全性の向上を図る。							予算額・ 執行額 (単位:千円)	予算 状況	当初予算	10,000	9,500				
事業概要	古い団地内側溝の有蓋化を図る。(R3年度末現在) みくに野団地 側溝延長16,490m 改修延長9,575m 改修率58% 宝城北団地 側溝延長 4,960m 改修延長4,176m 改修率84% 宝城南団地 側溝延長 6,160m 改修延長3,145m 改修率51% 大保団地 側溝延長 2,970m 改修延長1,647m 改修率55%									補正予算						
										前年度から繰越	7,141					
										翌年度へ繰越						
										予備費等	1,951					
										計	19,092	9,500				
根拠法令、 関係計画、 通知等	道路法									執行額	19,092	9,500				
										執行率(%)	100%	100%				
活動目標及び 活動実績1 (アウトプット)	活動指標	団地側溝整備発注件数		単位	R02年度	R03年度	R04年度 活動見込			R05年度 活動見込	歳入予算	R02年度		R03年度	R03年度の主な収入内訳(名称等)	
			活動実績	件	4	2						国庫支出金				
			当初見込	-	-	-	-					県支出金				
活動目標及び 活動実績2 (アウトプット)	活動指標	-		単位	R02年度	R03年度	R04年度 活動見込	R05年度 活動見込	使用料・手数料							
			活動実績	-	-			分担金・負担金等								
			当初見込	-	-	-	-	財産収入								
単位当たり コスト	算出根拠			単位	R02年度	R03年度			繰入金							
			単位当たり コスト	-	-	繰入金										
			計算式	X/Y	-	繰入金										
成果目標及び 成果実績1 (アウトカム)	成果目標	-		単位	R02年度	R03年度	中間目標 年度	目標最終年度 年度	繰入金							
									繰越金							
	成果指標	-		目標値	-	-	-	-	地方債	17,251	8,600					
				達成度	%	-	-	-	一般財源	1,841	900					
	補足説明	-								計	19,092	9,500				
成果目標及び 成果実績2 (アウトカム)	根拠として用いた 統計・データ名(出典)		-							歳出予算	R02年度	R03年度	R03年度の主な使途			
	成果目標			単位	R02年度	R03年度	中間目標 年度	目標最終年度 年度	工事請負費	19,092	9,500					
	成果指標			単位	R02年度	R03年度	中間目標 年度	目標最終年度 年度								
	補足説明															
根拠として用いた 統計・データ名(出典)									計	19,092	9,500					
投入工数 (単位:人)									正職員	0.3	0.3					
									再任用	0	0					
									会計年度月額	0	0					
									会計年度日額	0	0					
									計	0.30	0.30					
成果目標及び 成果実績2 (アウトカム)									人件費合計(千円)	2,220	2,220					
									総費用(千円)	21,312	11,720					
									人件費等の修正(千円)							
									総費用(千円)※人件費等修正後	21,312	11,720					

シートNo.	0332104	事務事業名	団地側溝整備事業			部・課・係	都市建設部		都市整備課	道路係
事業No.	J004306	開始年度	平成28年度	終了予定年度	終了予定なし	施策コード	P1021	作成責任者	都市整備課長	2/2ページ

項 目			令和3年度 事務事業担当課による点検・改善		<参考>令和2年度 事務事業担当課による点検・改善	
			評価	評価に関する説明	評価	評価に関する説明
事業の必要性	事業の目的は市民や社会のニーズを的確に反映しているか。		○	側溝の有蓋化は、地元からも要望されており、反映されている。	○	側溝の有蓋化は、地元からも要望されており、反映されている。
	地域、民間等に委ねることができない事業なのか。		○	市が管理する側溝（道路施設）の整備であり、市で実施する必要がある。	○	市が管理する側溝（道路施設）の整備であり、市で実施する必要がある。
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。 政策体系の中で優先度の高い事業か。		○	側溝の有蓋化は、地元からも要望されており、また、交通の安全性の向上を図り、更に大雨時においても、道路冠水の緩和を図り、安全性の向上を図るために適切な事業である。	○	側溝の有蓋化は、地元からも要望されており、また、交通の安全性の向上を図り、更に大雨時においても、道路冠水の緩和を図り、安全性の向上を図るために適切な事業である。
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。		○	適正な入れにより業者が選定され、工事を実施している。	○	適正な入れにより業者が選定され、工事を実施している。
	一般競争入札、指名競争入札又は随意契約（プロポーザル）による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	無			無	
	競争性のない随意契約となったものはないか。	無			無	
	受益者との負担関係は妥当であるか。	－		市が管理する団地側溝の有蓋化であり、市で実施する必要がある。	－	市が管理する団地側溝の有蓋化であり、市で実施する必要がある。
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	－		側溝の有蓋化には、既設側溝を利用した有蓋化や側溝の新設・撤去などがあり、また現場条件により側溝の規格（構造・大きさなど）も異なるためコスト設定することが適切ではない。	－	側溝の有蓋化には、既設側溝を利用した有蓋化や側溝の新設・撤去などがあり、また現場条件により側溝の規格（構造・大きさなど）も異なるためコスト設定することが適切ではない。
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○		団地内側溝の有蓋化を図る目的に限定されている。	○	団地内側溝の有蓋化を図る目的に限定されている。
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。（理由を右に記載）	－		特になし。	－	特になし。
	繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。（理由を右に記載）	－		特になし。	－	特になし。
	その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	○		工事実施において、工事条件・工法・施工内容などにより適切に行われている。	○	工事実施において、工事条件・工法・施工内容などにより適切に行われている。
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	－		現場状況に応じ、工事箇所・工法を選定し実施する事業であり、活動見込を設定することは適切ではない。	－	現場状況に応じ、工事箇所・工法を選定し実施する事業であり、活動見込を設定することは適切ではない。
事業の有効性	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	○		工事実施において、工事条件・工法・施工内容などにより適切に行われている。	○	工事実施において、工事条件・工法・施工内容などにより適切に行われている。
	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	－		成果目標を設定することは困難である。	－	成果目標を設定することは困難である。。
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	○		団地内側溝の有蓋化が進むことにより、安全性の向上が図られている。	○	団地内側溝の有蓋化が進むことにより、安全性の向上が図られている。
	関連する事業がある場合、他課等と適切な役割分担を行っているか。（役割分担の具体的な内容を右に記載）					
関連事業	課名					
	連番					
	事業名					
	点検・改善結果	点検結果		古い団地内側溝の有蓋化を実施し、交通の安全性の向上を図り、更に大雨時においても、道路冠水の緩和を図り、安全性の向上を図ることが出来た。		古い団地内側溝の有蓋化を実施し、交通の安全性の向上を図り、更に大雨時においても、道路冠水の緩和を図り、安全性の向上を図ることが出来た。
		改善の方向性		今後も継続して、古い団地内側溝の有蓋化を実施し、交通の安全性の向上を図り、更に大雨時においても、道路冠水の緩和を図り、安全性の向上を図る。		今後も継続して、古い団地内側溝の有蓋化を実施し、交通の安全性の向上を図り、更に大雨時においても、道路冠水の緩和を図り、安全性の向上を図る。

事務事業評価シート(令和3年度事務事業)

シートNo.	0332105	事務事業名	大保駅北歩道整備事業			部・課・係	都市建設部	都市整備課	道路係
事業No.	J004442	開始年度	平成30年度	終了予定年度	令和5年度	施策コード	P1021	作成責任者	都市整備課長

事業の目的		西鉄大保駅北側周辺について、現在、西鉄天神大牟田線の西側にある県道久留米小郡線は、交通量が多い上に路側帯も無く、歩行者は歩道もない状況で通行している。また、通学路についても安全に通学できる道路が少なく、交通安全プログラム要対策箇所となっている。そのため、西鉄天神大牟田線の東側に歩道を新設することにより、通学路と地域間往來の安全の確保及び、利便性の向上が図られ、早期に整備を行う必要がある。							予算額・執行額 (単位:千円)	予算状況	R02年度		R03年度		
											当初予算		0		0
											補正予算		0		5,500
											前年度から繰越		0		
											翌年度へ繰越		0		
											予備費等		0		
											計		0		5,500
事業概要		本路線は、延長220m、道路幅員2.0mの歩道を新設する事業である。 道路利用者が安全で快適に通行できるよう本事業を実施する。 道路新設となることから権利者の方より道路用地を取得し、道路工事を行う。							執行額			5,138			
									執行率(%)			93%			
根拠法令、関係計画、通知等		土地収用法、道路法、道路構造令							歳入予算		R02年度	R03年度	R03年度の主な収入内訳(名称等)		
									国庫支出金			0	2,750	社会資本整備総合交付金	
活動目標及び活動実績1 (アウトプット)		活動指標		事業進捗率			単位	R02年度	R03年度	R04年度 活動見込	R05年度 活動見込				
						活動実績	%	18	26						
						当初見込	%	18	27	60	100				
		活動指標		-			単位	R02年度	R03年度	R04年度 活動見込	R05年度 活動見込				
						活動実績	-	-	-						
						当初見込	-	-	-	-	-				
		単位当たりコスト		算出根拠			単位	R02年度	R03年度						
						単位当たりコスト	-	-	-						
						計算式	X/Y	11,392/0	16,529/0						
		成果目標及び成果実績1 (アウトカム)		成果目標		道路整備延長 令和5年度までに100%			単位	R02年度	R03年度		中間目標 年度	目標最終年度 5年度	
								成果実績	m	0	0		-	100	
								目標値	m	0	0		-	100	
				成果指標		道路整備延長		達成度	%	0	0		-	-	
								補足説明							
								根拠として用いた統計・データ名(出典)							
成果目標及び成果実績2 (アウトカム)		成果目標					単位	R02年度	R03年度	中間目標 年度	目標最終年度 年度				
						成果実績									
						目標値									
		成果指標				達成度	%								
						補足説明									
						根拠として用いた統計・データ名(出典)									
人件費合計(千円)		総費用(千円)		人件費等の修正(千円)		総費用(千円)※人件費等修正後		計		0.00	0.10				
								0		740					
								0		5,878					
								0							
								0							
								0							

シートNo.	0332105	事務事業名	大保駅北歩道整備事業		部・課・係	都市建設部	都市整備課	道路係
事業No.	J004442	開始年度	平成30年度	終了予定年度	令和5年度	施策コード	P1021	作成責任者 都市整備課長

項 目			令和3年度 事務事業担当課による点検・改善		<参考>令和2年度 事務事業担当課による点検・改善	
	評価	評価に関する説明	評価	評価に関する説明		
事業の必要性	事業の目的は市民や社会のニーズを的確に反映しているか。	交通安全プログラム要対策箇所となっており、地元からも早期の整備を求められている事からもニーズは的確に反映されている。	○	交通安全プログラム要対策箇所となっており、地元からも早期の整備を求められている事からもニーズは的確に反映されている。	○	交通安全プログラム要対策箇所となっており、地元からも早期の整備を求められている事からもニーズは的確に反映されている。
	地域、民間等に委ねることができない事業なのか。	安全性、利便性の向上を図るための歩道整備であり、市で行う事業であると考える。	○	安全性、利便性の向上を図るための歩道整備であり、市で行う事業であると考える。	○	安全性、利便性の向上を図るための歩道整備であり、市で行う事業であると考える。
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。 政策体系の中で優先度の高い事業か。	現状は、事業の目的にあるとおりであり、目的の達成のためには適切な事業である。	○	現状は、事業の目的にあるとおりであり、目的の達成のためには適切な事業である。	○	現状は、事業の目的にあるとおりであり、目的の達成のためには適切な事業である。
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	用地調査等業務は、適正な入札により業者が選定され競争性が確保された。	○	令和2年度は、小郡市緊急財政対策計画に伴い事業を休止しているため、支出無。	－	令和2年度は、小郡市緊急財政対策計画に伴い事業を休止しているため、支出無。
	一般競争入札、指名競争入札又は随意契約（プロポーザル）による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	不動産鑑定業務は、随意契約により3業者から見積もり徴収を実施し、競争性が確保された。	無			
	競争性のない随意契約となったものはないか。		無			
	受益者との負担関係は妥当であるか。	安全性、利便性の向上を図るための歩道整備であり、市で行う事業であると考える。	○	安全性、利便性の向上を図るための歩道整備であり、市で行う事業であると考える。	○	安全性、利便性の向上を図るための歩道整備であり、市で行う事業であると考える。
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	現在、本事業で実施しているものは、詳細設計、用地調査等業務及び用地買収のみであり、コスト設定には、適していない。	－	現在、本事業で実施しているものは、詳細設計および不動産鑑定に基づく用地買収のみであり、コスト設定には、適していない。	－	現在、本事業で実施しているものは、詳細設計および不動産鑑定に基づく用地買収のみであり、コスト設定には、適していない。
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	用地買収を伴う事業であることから、土地の評価及び移転補償を算定する業務が必要である。	○	令和2年度は、小郡市緊急財政対策計画に伴い事業を休止しているため、支出無。	－	令和2年度は、小郡市緊急財政対策計画に伴い事業を休止しているため、支出無。
	不用率が大い場合、その理由は妥当か。（理由を右に記載）		－	令和2年度は、小郡市緊急財政対策計画に伴い事業を休止しているため、支出無。	－	令和2年度は、小郡市緊急財政対策計画に伴い事業を休止しているため、支出無。
	繰越額が大い場合、その理由は妥当か。（理由を右に記載）		－	令和2年度は、小郡市緊急財政対策計画に伴い事業を休止しているため、支出無。	－	令和2年度は、小郡市緊急財政対策計画に伴い事業を休止しているため、支出無。
	その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	現在、本事業で実施しているものは、詳細設計、用地調査等業務及び用地買収のみであり、コスト設定には、適していない。	－	令和2年度は、小郡市緊急財政対策計画に伴い事業を休止しているため、支出無。	－	令和2年度は、小郡市緊急財政対策計画に伴い事業を休止しているため、支出無。
事業の有効性	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	令和3年度に予定していた不動産鑑定及び用地調査等業務を実施した。	○	活動実績は見込みに見合っている。	○	活動実績は見込みに見合っている。
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	他に考えられる手法はない。	－	用地買収において、不動産鑑定を実施し、適切に行われている。	○	用地買収において、不動産鑑定を実施し、適切に行われている。
	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	歩道の供用により、成果が図られるものであるため、現時点での評価することは困難である。	－	事業完了により、成果が図られるものであるため、事業期間中に評価することは困難である。	－	事業完了により、成果が図られるものであるため、事業期間中に評価することは困難である。
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	現在、用地買収を行っており、整備された施設等はない。	－	現在、用地買収を行っており、整備された施設等はない。	－	現在、用地買収を行っており、整備された施設等はない。
関連事業	関連する事業がある場合、他課等と適切な役割分担を行っているか。（役割分担の具体的な内容を右に記載）					
	課名					
	連番					
	事業名					
点検・改善結果	点検結果	交通安全プログラム要対策箇所となっており、地元からも早期の整備を求められている事からも遅延なく事業を進める必要がある。		交通安全プログラム要対策箇所となっており、地元からも早期の整備を求められている事からも遅延なく事業を進める必要がある。		交通安全プログラム要対策箇所となっており、地元からも早期の整備を求められている事からも遅延なく事業を進める必要がある。
	改善の方向性	令和5年度全線供用するためには、用地を取得する必要があることから、計画的な事業計画に基づき、事業を円滑に進めていくことが必要である。 そのためには、地権者に事業の目的をご理解いただくことが最重要となる。		特になし。		特になし。

事務事業評価シート(令和3年度事務事業)

シートNo.	0332106	事務事業名	大崎・下岩田14号道路整備事業			部・課・係	都市建設部	都市整備課	道路係
事業No.	J004047	開始年度	平成25年度	終了予定年度	令和4年度	施策コード	P1043	作成責任者	都市整備課長

1/2ページ

事業の目的		下岩田交差点(変則五差路)の通行危険回避のため、石原川未整備区間の整備と併せて通学路の歩道整備を行い、治水能力の向上と通学路の安全対策を図る。							予算額・ 執行額 (単位:千円)		予算 状況		当初予算		R02年度	R03年度							
事業概要		市道大崎・下岩田14号線(柳内橋)架替 道路整備(ハイパス含む) L=210m(車道5.0m+歩道2.5m) 橋梁 L=15.2m 石原川未整備区間の整備 L=90m											補正予算		▲ 26,655	▲ 5,000							
													前年度から繰越		41,600	26,100							
													翌年度へ繰越		▲ 26,100	▲ 14,780							
根拠法令、 関係計画、 通知等		道路法、道路構造令							予備費等		267	▲ 336	計		89,112	64,484	R03年度の主な収入内訳(名称等)						
									執行額		89,112	57,823	執行率(%)		100%	90%							
									歳入予算		R02年度	R03年度	R03年度の主な収入内訳(名称等)										
活動目標及び 活動実績1 (アウトプット)		活動指標		道路整備済延長 (計画延長L=210m)		活動実績		単位		R02年度	R03年度	R04年度	R05年度	R03年度の主な収入内訳(名称等)									
								活動実績		m	0	126	活動見込			活動見込							
								当初見込		m	0	130	210										
								活動実績		m	85	85	R04年度			R05年度							
活動目標及び 活動実績2 (アウトプット)		活動指標		河川整備済延長 (計画延長L=90m)		活動実績		単位		R02年度	R03年度	R04年度	R05年度	R03年度の主な収入内訳(名称等)									
								活動実績		m	85	85	活動見込			活動見込							
								当初見込		m	85	85	90										
								活動実績		m	85	85	90										
単位当たり コスト		算出根拠		単位		R02年度		R03年度		R04年度		R05年度		R03年度の主な収入内訳(名称等)									
																単位当たり コスト		-	-				
																計算式		X/Y	-				
成果目標及び 成果実績1 (アウトカム)		成果目標		成果実績		単位		R02年度		R03年度		中間目標 年度		目標最終年度 年度		R03年度の主な収入内訳(名称等)							
																		成果実績		-	-	-	-
																		目標値		-	-	-	-
																		達成度		%	-	-	-
補足説明		根拠として用いた 統計・データ名(出典)							投入工数 (単位:人)		正職員		0.3	0.3	R03年度の主な収入内訳(名称等)								
											再任用		0	0									
											会計年度月額		0	0									
成果目標及び 成果実績2 (アウトカム)		成果目標		成果実績		単位		R02年度		R03年度		中間目標 年度		目標最終年度 年度		R03年度の主な収入内訳(名称等)							
																		成果実績		-	-	-	-
																		目標値		-	-	-	-
																		達成度		%	-	-	-
補足説明		根拠として用いた 統計・データ名(出典)							投入工数 (単位:人)		物件移転補償費		12,472	水道管移設	R03年度の主な収入内訳(名称等)								
											計		89,112	64,484									
											計		0.30	0.30									
成果目標及び 成果実績2 (アウトカム)		根拠として用いた 統計・データ名(出典)							投入工数 (単位:人)		人件費合計(千円)		2,220	2,220	R03年度の主な収入内訳(名称等)								
											総費用(千円)		91,332	60,043									
											人件費等の修正(千円)												
											総費用(千円)※人件費等修正後		91,332	60,043									

シートNo.	0332106	事務事業名	大崎・下岩田14号道路整備事業			部・課・係	都市建設部	都市整備課	道路係
事業No.	J004047	開始年度	平成25年度	終了予定年度	令和4年度	施策コード	P1043	作成責任者	都市整備課長

項 目			令和3年度 事務事業担当課による点検・改善		<参考>令和2年度 事務事業担当課による点検・改善	
			評価	評価に関する説明	評価	評価に関する説明
事業の必要性	事業の目的は市民や社会のニーズを的確に反映しているか。		○	通学路安全対策や豪雨災害対策が課題であり、本事業を実施することにより、交通安全プログラムにおける要対策箇所と併せて石原川未整備区間を整備され、治水能力の向上と通学路の安全対策を図ることができ、ニーズが的確に反映されている。	○	通学路安全対策や豪雨災害対策が課題であり、本事業を実施することにより、交通安全プログラムにおける要対策箇所と併せて石原川未整備区間を整備され、治水能力の向上と通学路の安全対策を図ることができ、ニーズが的確に反映されている。
	地域、民間等に委ねることができない事業なのか。		○	小郡市が管理する市道、橋梁、河川の整備であり、市で実施する必要がある。	○	小郡市が管理する市道、橋梁、河川の整備であり、市で実施する必要がある。
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。 政策体系の中で優先度の高い事業か。		○	通学路安全対策や豪雨災害対策が課題であり、本事業を実施することにより、交通安全プログラムにおける要対策箇所と併せて石原川未整備区間を整備され、治水能力の向上と通学路の安全対策を図ることができ、優先度の高い事業である。	○	通学路安全対策や豪雨災害対策が課題であり、本事業を実施することにより、交通安全プログラムにおける要対策箇所と併せて石原川未整備区間を整備され、治水能力の向上と通学路の安全対策を図ることができ、優先度の高い事業である。
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。		○	適正な入札により業者が選定され、工事を実施している。	○	適正な入札により業者が選定され、工事を実施している。
	一般競争入札、指名競争入札又は随意契約（プロポーザル）による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。		無		無	
	競争性のない随意契約となったものはないか。		無		無	
	受益者との負担関係は妥当であるか。		○	小郡市が管理する市道、橋梁、河川の整備であり、市で実施する必要がある。	○	小郡市が管理する市道、橋梁、河川の整備であり、市で実施する必要がある。
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。		-	整備内容が、道路整備・橋梁の架替え・河川整備を同一事業で実施しており、適切なコストが算出できない。	-	整備内容が、道路整備・橋梁の架替え・河川整備を同一事業で実施しており、適切なコストが算出できない。
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		○	事業目的（事業概要）にのみ限定されている。	○	事業目的（事業概要）にのみ限定されている。
	不用率が大い場合、その理由は妥当か。（理由を右に記載）		○	事業進捗に伴う施工時期の変更に伴い生じたもので妥当である。	-	特になし。
	繰越額が大い場合、その理由は妥当か。（理由を右に記載）		○	現場条件や適正工期確保のための繰越であり、妥当である。	○	現場条件や適正工期確保のための繰越であり、妥当である。
事業の有効性	その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。		○	工事実施において、工事条件・工法・施工内容などにより適切に行われている。	○	工事実施において、工事条件・工法・施工内容などにより適切に行われている。
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。		△	国庫補助事業の内示率に応じ事業を進めており、当初予定より事業が遅延している。	△	国庫補助事業の内示率に応じ事業を進めており、当初予定より事業が遅延している。
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。		○	工事実施において、工事条件・工法・施工内容などにより適切に行われている。	○	工事実施において、工事条件・工法・施工内容などにより適切に行われている。
	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。		-	事業完了により、成果が図られるものであるため、事業期間中に評価することは困難である。	-	事業完了により、成果が図られるものであるため、事業期間中に評価することは困難である。
関連事業	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。		○	石原川未整備区間の整備が進み、治水能力の向上が図られている。	○	石原川未整備区間の整備が進み、治水能力の向上が図られている。
	関連する事業がある場合、他課等と適切な役割分担を行っているか。（役割分担の具体的な内容を右に記載）					
	課名					
	連番					
事業名						
点検・改善結果	点検結果		本事業は、当初予定より事業が遅延していたが、現在は、令和4年度に完成予定に向け事業を進めている。また、事業完了後は、浸水解消及び通学路の安全対策を図られる。		当初予定より事業が遅延しているため、本事業を早期に完了させ、浸水解消及び通学路の安全対策を図る必要がある。	
	改善の方向性		特になし。		特になし。	

事務事業評価シート(令和3年度事務事業)

シートNo.	0332107	事務事業名	干潟区(干潟・花立102号線)道路整備事業			部・課・係	都市建設部	都市整備課	道路係
事業No.	J004266	開始年度	平成28年度	終了予定年度	令和3年度	施策コード	P1021	作成責任者	都市整備課長

事業の目的		県道本郷基山線から干潟集落を通過し花立区へ通じる生活道路であり、現況の道路幅員は2m程しかない狭隘な道路である。 道路整備により、通学路の安全確保と利便性向上を図る。							予算額・ 執行額 (単位:千円)	予算 状況	R02年度		R03年度		
											当初予算	25,000	640	補正予算	23,000
事業概要		本路線は県道本郷基山線から干潟集落を通過し花立区へ通じる生活道路で、延長約600m(幅員5m)の道路整備を行うものである。 道路利用者が安全で快適に通行できるよう本事業を計画しており、住環境等の整備促進を実施する。 道路拡幅となることから、権利者の方より道路用地を取得し、道路工事を行う。 R2年度より、社会資本整備総合交付金(狭あい道路整備等促進事業)を活用(補助率50%)							予算内訳 (単位:千円)	歳入予算	R02年度	R03年度	R03年度の主な収入内訳(名称等)		
											国庫支出金	12,150		6,950	社会資本整備総合交付金
											県支出金				
											使用料・手数料				
											分担金・負担金等				
根拠法令、 関係計画、 通知等		土地収用法、道路法、道路構造令							歳出予算	R02年度	R03年度	R03年度の主な使途			
										工事請負費	24,300		23,000	道路改良工事	
										公有財産購入費	265		640	道路用地購入費	
										補償費	48				
活動目標及び 活動実績1 (アウトプット)		活動指標	道路整備(事業進捗)率 (事業費ベース)		単位	R02年度	R03年度	R04年度 活動見込	R05年度 活動見込						
						活動実績	%					76	95		
						当初見込	%					76	100	-	100
活動目標及び 活動実績2 (アウトプット)		活動指標	道路用地取得率		単位	R02年度	R03年度	R04年度 活動見込	R05年度 活動見込						
						活動実績	%					96	96		
						当初見込	%					100	100	-	100
単位当たり コスト		算出根拠			単位	R02年度	R03年度								
						X:総事業費(単位:千円) Y:整備完了延長(単位:m)	千円					200.0	188.2		
						計算式	X/Y					88,138 /439	109,165 /580		
成果目標及び 成果実績1 (アウトカム)		成果目標	道路整備延長 令和3年度までに100%		単位	R02年度	R03年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 R05 年度						
						成果実績	m					439	580	-	
		成果指標	道路整備延長		目標値	m	439	600	-	600					
						達成度	%	100	97	-			-		
		補足説明		-											
根拠として用いた 統計・データ名(出典)		-													
成果目標及び 成果実績2 (アウトカム)		成果目標			単位	R02年度	R03年度	中間目標 年度	目標最終年度 年度						
						成果実績									
		成果指標			目標値										
						達成度	%								
		補足説明													
根拠として用いた 統計・データ名(出典)															
投入工数 (単位:人)									正職員	0.7	0.7				
									再任用	0	0				
									会計年度月額	0	0				
									会計年度日額	0	0				
									計	0.70	0.70				
									人件費合計(千円)	5,180	5,180				
									総費用(千円)	27,938	26,207				
									人件費等の修正(千円)						
									総費用(千円)※人件費等修正後	27,938	26,207				

シートNo.	0332107	事務事業名	干潟区(干潟・花立102号線)道路整備事業		部・課・係	都市建設部		都市整備課		道路係
事業No.	J004266	開始年度	平成28年度	終了予定年度	令和3年度	施策コード	P1021	作成責任者	都市整備課長	2／2ページ

項 目			令和3年度 事務事業担当課による点検・改善		<参考>令和2年度 事務事業担当課による点検・改善	
			評価	評価に関する説明	評価	評価に関する説明
事業の必要性	事業の目的は市民や社会のニーズを的確に反映しているか。		○	地元区からの要望事業であり、現況幅員2m程度と狭い道路であるものの通学路にも指定されているため、安全性・利便性の観点より、地域のニーズは高い。	○	地元区からの要望事業であり、現況幅員2m程度と狭い道路であるものの通学路にも指定されているため、安全性・利便性の観点より、地域のニーズは高い。
	地域、民間等に委ねることができない事業なのか。		○	公共事業であり、用地取得～工事までの一連の事務は、公平性・透明性を確保する必要があるため、行政である市が実施する。	○	公共事業であり、用地取得～工事までの一連の事務は、公平性・透明性を確保する必要があるため、行政である市が実施する。
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。 政策体系の中で優先度の高い事業か。		○	都市基盤である道路の整備を進めることで、市民生活の安全性・利便性向上を図ることができる。	○	都市基盤である道路の整備を進めることで、市民生活の安全性・利便性向上を図ることができる。
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。		○	令和3年度は、道路改良工事を一般競争入札により実施しており、競争性が確保された。	○	令和2年度は、道路改良工事を一般競争入札により実施しており、競争性が確保された。
	一般競争入札、指名競争入札又は随意契約（プロポーザル）による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。		無		無	
	競争性のない随意契約となったものはないか。		無		無	
	受益者との負担関係は妥当であるか。		－	道路は特定の人が利用するものでなく、全ての人が利用する公共施設である。	－	道路は特定の人が利用するものでなく、全ての人が利用する公共施設である。
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。		－	用地取得や工作物等移転補償など、その路線（場所）ごとに金額が大きく異なるため、一概にコスト比較はできない。	－	用地取得や工作物等移転補償など、その路線（場所）ごとに金額が大きく異なるため、一概にコスト比較はできない。
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		○	令和3年度は、道路改良工事を実施しており、道路整備を行うために必要なものである。	○	令和2年度は、道路用地取得・取得に伴う補償・道路改良工事を実施しており、道路整備を行うために必要なものである。
	不用率が大い場合、その理由は妥当か。（理由を右に記載）		○	令和3年度に予定していた用地が、取得できなかったため一部区間工事を実施することができなかった。	○	入札残によるものである。
事業の有効性	繰越額が大い場合、その理由は妥当か。（理由を右に記載）		－		－	
	その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。		○	工事請負業者と協議しながら、経済的で効果的な工事を実施できた。	○	工事請負業者と協議しながら、経済的で効果的な工事を実施できた。
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。		△	令和3年度に予定していた用地が、取得できなかったため一部区間工事を実施することができなかった。	△	令和2年度に予定していた用地が一部、取得できなかった。
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。		－	他に考えられる手法はない。	－	他に考えられる手法はない。
関連事業	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。		○	生活道路であり、成果の数値指標設定が困難なため、道路整備延長で評価した。 従前は2m程の狭隘道路であるため、幅員5mの道路整備をすることで、安全性・利便性向上が図れる。	○	生活道路であり、成果の数値指標設定が困難なため、道路整備延長で評価した。 従前は2m程の狭隘道路であるため、幅員5mの道路整備をすることで、安全性・利便性向上が図れる。
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。		○	令和3年度末時点で、延長600mのうち約580mが完成・供用しており、一定の事業効果は見込める。	○	令和2年度末時点で、延長600mのうち約440mが完成・供用しており、一定の事業効果は見込める。
関連事業			課名		連番	
			事業名			
			点検・改善結果		点検結果	
			改善の方向性		改善の方向性	
			令和3年度に予定していた用地が、取得できず一部区間工事を実施することができなかった為、道路整備（道路整備率）及び道路用地取得率は、目標を達成していない。 全線供用に向け、権利者に事業協力いただけるよう、丁寧な説明を行う必要がある。		道路整備（道路整備率）は、昨年度に引き続き目標を達成している。 しかし、令和2年度に予定していた用地取得が一部、取得できていないことから、権利者に事業協力いただけるよう、丁寧な説明を行う必要がある。	
			全線供用に向けて、用地を取得できるよう、権利者に事業の目的をご理解いただくことが最重要となる。 また、地元区との調整協議を随時実施していく。		令和3年度が事業終了年度であるため、用地を取得できるよう、権利者に事業の目的をご理解いただくことが最重要となる。 また、令和3年度全線供用に向けて、地元区との調整協議を随時実施していく。	

事務事業評価シート(令和3年度事務事業)

シートNo.	0332108	事務事業名	幹線市道舗装事業		部・課・係	都市建設部	都市整備課	道路係
事業No.	J004107	開始年度	平成29年度	終了予定年度	終了予定なし	施策コード	P1021	作成責任者 都市整備課長

事業の目的	道路利用者の安全性及び利便性の向上を図ることを目的とし、市内の幹線道路を整備（舗装）する事業であり、また、予防保全的な修繕・補修を行うことにより、道路舗装の長寿命化を図る。								予算額・ 執行額 (単位:千円)	予算 状況	R02年度		R03年度			
											当初予算	28,000	0			
											補正予算	▲ 10,600	28,000			
											前年度から繰越					
事業概要	道路利用者の安全性及び利便性の向上を図るため、市内の幹線道路を整備（舗装）し、また、予防保全的な修繕・補修を行うことにより、道路舗装の長寿命化を図る。								予算内訳 (単位:千円)	翌年度へ繰越						
											予備費等					
											計	17,400	28,000			
											執行額	15,378	28,000			
根拠法令、 関係計画、 通知等	道路法								投入工数 (単位:人)	執行率(%)	88%	100%				
											歳入予算	R02年度	R03年度	R03年度の主な収入内訳(名称等)		
											国庫支出金		5,300			
											県支出金					
活動目標及び 活動実績1 (アウトプット)	活動指標	工事件数		単位	R02年度	R03年度	R04年度 活動見込	R05年度 活動見込	使用料・手数料 分担金・負担金等	財産収入	繰入金	諸収入	繰越金			
					活動実績	件	1	3								
					当初見込	-	-	-						-	-	
					活動実績	-	-									
活動目標及び 活動実績2 (アウトプット)	活動指標	-		単位	R02年度	R03年度	R04年度 活動見込	R05年度 活動見込	地方債	15,600	20,300	一般財源	1,800	2,400		
					活動実績	-	-									
					当初見込	-	-	-							-	-
					活動実績	-	-									
単位当たり コスト	算出根拠			単位	R02年度	R03年度										
					単位当たり コスト	-									-	
					計算式	X/Y									-	
成果目標及び 成果実績1 (アウトカム)	成果目標	-		単位	R02年度	R03年度	中間目標 年度	目標最終年度 年度	計	17,400	28,000	R03年度の主な使途				
					成果実績	-	-									
					成果指標	-	-	-					-	-	-	
					達成度	%	-	-					-	-		
成果目標及び 成果実績2 (アウトカム)	補足説明		-													
	根拠として用いた 統計・データ名(出典)		-													
	成果目標			単位	R02年度	R03年度	中間目標 年度	目標最終年度 年度	計	0.20	0.20	正職員	0.2	0.2		
					成果実績											
目標値																
達成度					%											
成果目標及び 成果実績2 (アウトカム)	成果指標			単位	R02年度	R03年度	中間目標 年度	目標最終年度 年度	人件費合計(千円)	1,480	1,480	総費用(千円)	16,858	29,480		
					目標値											
					達成度	%										
					補足説明											
成果目標及び 成果実績2 (アウトカム)	根拠として用いた 統計・データ名(出典)															

シートNo.	0332108	事務事業名	幹線市道舗装事業			部・課・係	都市建設部		都市整備課	道路係
事業No.	J004107	開始年度	平成29年度	終了予定年度	終了予定なし	施策コード	P1021	作成責任者	都市整備課長	2/2ページ

項 目			令和3年度 事務事業担当課による点検・改善		<参考>令和2年度 事務事業担当課による点検・改善	
			評価	評価に関する説明	評価	評価に関する説明
事業の必要性	事業の目的は市民や社会のニーズを的確に反映しているか。		○	道路利用者の安全性及び利便性の向上を図るため、市内の幹線道路を整備（舗装）し、また、予防保全的な修繕・補修を行うことにより、道路舗装の長寿命化を図るための事業であり、適切である。	○	道路利用者の安全性及び利便性の向上を図るため、市内の幹線道路を整備（舗装）し、また、予防保全的な修繕・補修を行うことにより、道路舗装の長寿命化を図るための事業であり、適切である。
	地域、民間等に委ねることができない事業なのか。		○	市が管理する道路維持のためであり、市で実施する必要がある。	○	市が管理する道路維持のためであり、市で実施する必要がある。
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。 政策体系の中で優先度の高い事業か。		○	道路利用者の安全性及び利便性の向上を図るため、市内の幹線道路を整備（舗装更新）し、また、予防保全的な修繕・補修を行うことにより、道路舗装の長寿命化を図るための事業であり、適切である。	○	道路利用者の安全性及び利便性の向上を図るため、市内の幹線道路を整備（舗装更新）し、また、予防保全的な修繕・補修を行うことにより、道路舗装の長寿命化を図るための事業であり、適切である。
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。		○	適正な入れにより業者が選定され、工事を実施している。	○	適正な入れにより業者が選定され、工事を実施している。
	一般競争入札、指名競争入札又は随意契約（プロポーザル）による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。		無		無	
	競争性のない随意契約となったものはないか。		無		無	
	受益者との負担関係は妥当であるか。		○	市が管理する幹線道路の維持・補修であり、市で実施する必要がある。	○	市が管理する幹線道路の維持・補修であり、市で実施する必要がある。
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。		－	道路条件（舗装厚・道路幅員・交通量）や施工工法により事業内容・事業費が異なるため、コスト設定は適切ではない。	－	道路条件（舗装厚・道路幅員・交通量）や施工工法により事業内容・事業費が異なるため、コスト設定は適切ではない。
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		○	道路利用者の安全性及び利便性の向上を図るため、市内の幹線道路を整備（舗装更新）し、また、予防保全的な修繕・補修を行うことにより、道路舗装の長寿命化を図るための事業であり、適切である。	○	道路利用者の安全性及び利便性の向上を図るため、市内の幹線道路を整備（舗装更新）し、また、予防保全的な修繕・補修を行うことにより、道路舗装の長寿命化を図るための事業であり、適切である。
	不利用率が大きい場合、その理由は妥当か。（理由を右に記載）		○	入れによる執行残であり、妥当である。	○	入れによる執行残であり、妥当である。
	繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。（理由を右に記載）		－	特になし。	－	特になし。
	その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。		○	工事実施において、工事条件・工法・施工内容などにより適切に行われている。	○	工事実施において、工事条件・工法・施工内容などにより適切に行われている。
事業の有効性	活動実績は見込みに見合ったものであるか。		－	状況に応じ、事業箇所・工法を選定し、事業を実施しており活動見込を設定することは適切ではない。	－	状況に応じ、事業箇所・工法を選定し、事業を実施しており活動見込を設定することは適切ではない。
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。		○	工事実施において、工事条件・工法・施工内容などにより適切に行われている。	○	工事実施において、工事条件・工法・施工内容などにより適切に行われている。
	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。		－	道路利用者の安全性及び利便性の向上を図るため、市内の幹線道路を整備（舗装更新）し、また、予防保全的な修繕・補修を行うものであり、成果目標の設定は、困難である。	－	道路利用者の安全性及び利便性の向上を図るため、市内の幹線道路を整備（舗装更新）し、また、予防保全的な修繕・補修を行うものであり、成果目標の設定は、困難である。
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。		○	道路利用者の安全性及び利便性の向上を図るため、市内の幹線道路を整備（舗装）し、また、予防保全的な修繕・補修を行い、道路舗装の長寿命化を図られており、適切である。	○	道路利用者の安全性及び利便性の向上を図るため、市内の幹線道路を整備（舗装）し、また、予防保全的な修繕・補修を行い、道路舗装の長寿命化を図られており、適切である。
関連事業	関連する事業がある場合、他課等と適切な役割分担を行っているか。（役割分担の具体的な内容を右に記載）					
	課名					
	連番					
	事業名					
点検・改善結果	点検結果			道路利用者の安全性及び利便性の向上を図るため、市内の幹線道路を整備（舗装）し、また、予防保全的な修繕・補修を行うことにより、道路舗装の長寿命化に努めることが出来た。しかし、幹線道路などを含む交通量が多い道路は、整備よりかなりの年数が経過して老朽化が進んでおり、今後は、道路舗装の適正な維持管理を状況に応じ、行っていくことが課題である。		道路利用者の安全性及び利便性の向上を図るため、市内の幹線道路を整備（舗装）し、また、予防保全的な修繕・補修を行うことにより、道路舗装の長寿命化に努めることが出来た。しかし、幹線道路などを含む交通量が多い道路は、整備よりかなりの年数が経過して老朽化が進んでおり、今後は、道路舗装の適正な維持管理を状況に応じ、行っていくことが課題である。
	改善の方向性			道路状況を把握し、適正な予防保全に努める。		道路状況を把握し、適正な予防保全に努める。

事務事業評価シート(令和3年度事務事業)

シートNo.	0332109	事務事業名	道路橋梁長寿命化修繕事業			部・課・係	都市建設部		都市整備課		道路係
事業No.	J001074	開始年度	平成23年度	終了予定年度	終了予定なし	施策コード	P1021	作成責任者	都市整備課長		1/2ページ

事業の目的		老朽化する道路橋について、長寿命化修繕計画を策定することで予防的な修繕、計画的な架替を行い、橋梁の長寿命化に伴う維持修繕費用の縮減を図りつつ、道路ネットワークの安全性を確保する。							予算額・ 執行額 (単位:千円)		R02年度		R03年度										
											当初予算		60,660	10,000									
事業概要		市が管理する橋梁の点検、長寿命化・予防保全を目的とした橋梁の維持補修(修繕、架替など)							予算状況		補正予算		4,568	45,000									
									前年度から繰越		32,307	17,531											
									翌年度へ繰越		▲ 17,531	▲ 3,896											
									予備費等			29											
									計		80,004	68,664											
根拠法令、 関係計画、 通知等		長寿命化修繕計画策定事業費補助制度							執行額		80,004	61,986											
									執行率(%)		100%	90%											
									歳入予算		R02年度	R03年度	R03年度の主な収入内訳(名称等)										
活動目標及び 活動実績1 (アウトプット)		活動指標		橋梁点検総数 (市が管理する481橋を5年サイクルで点検、2巡目実施年度:R1～5)		活動実績		橋		128	197												
								当初見込		橋	128			197	339								
						活動実績		-		-	-	R04年度活動見込		R05年度活動見込									
								当初見込		-	-	-	-										
						活動目標及び 活動実績2 (アウトプット)		活動指標		-		活動実績		-		-	-						
														当初見込		-	-			-	-		
												活動実績		-		-	-	R04年度活動見込		R05年度活動見込			
														当初見込		-	-	-	-				
												単位当たり コスト		-		算出根拠		単位		R02年度	R03年度		
																		単位当たりコスト		-	-		
計算式		X/Y	-																				
成果目標及び 成果実績1 (アウトカム)		成果目標		-								活動実績		単位		R02年度	R03年度	中間目標年度	目標最終年度				
														成果実績		件	4	3	-	-			
						成果指標		橋梁補修工事発注件数		目標値		-	-	-	-	-	-						
										達成度		%	-	-	-	-	-						
						補足説明		点検結果に基づき、状況に応じた工法で実施する事業であるため、目標値の設定は適切ではない。															
						根拠として用いた統計・データ名(出典)		-															
成果目標及び 成果実績2 (アウトカム)		成果目標		-		活動実績		単位		R02年度	R03年度	中間目標年度	目標最終年度										
								成果実績															
						成果指標		-		目標値													
										達成度		%											
						補足説明																	
						根拠として用いた統計・データ名(出典)		-															
成果目標及び 成果実績2 (アウトカム)		成果目標		-		活動実績		単位		R02年度	R03年度	中間目標年度	目標最終年度										
								成果実績															
						成果指標		-		目標値													
										達成度		%											
						補足説明																	
						根拠として用いた統計・データ名(出典)		-															
成果目標及び 成果実績2 (アウトカム)		成果目標		-		活動実績		単位		R02年度	R03年度	中間目標年度	目標最終年度										
								成果実績															
						成果指標		-		目標値													
										達成度		%											
						補足説明																	
						根拠として用いた統計・データ名(出典)		-															
成果目標及び 成果実績2 (アウトカム)		成果目標		-		活動実績		単位		R02年度	R03年度	中間目標年度	目標最終年度										
								成果実績															
						成果指標		-		目標値													
										達成度		%											
						補足説明																	
						根拠として用いた統計・データ名(出典)		-															
成果目標及び 成果実績2 (アウトカム)		成果目標		-		活動実績		単位		R02年度	R03年度	中間目標年度	目標最終年度										
								成果実績															
						成果指標		-		目標値													
										達成度		%											
						補足説明																	
						根拠として用いた統計・データ名(出典)		-															
成果目標及び 成果実績2 (アウトカム)		成果目標		-		活動実績		単位		R02年度	R03年度	中間目標年度	目標最終年度										
								成果実績															
						成果指標		-		目標値													
										達成度		%											
						補足説明																	
						根拠として用いた統計・データ名(出典)		-															
成果目標及び 成果実績2 (アウトカム)		成果目標		-		活動実績		単位		R02年度	R03年度	中間目標年度	目標最終年度										
								成果実績															
						成果指標		-		目標値													
										達成度		%											
						補足説明																	
						根拠として用いた統計・データ名(出典)		-															
成果目標及び 成果実績2 (アウトカム)		成果目標		-		活動実績		単位		R02年度	R03年度	中間目標年度	目標最終年度										
								成果実績															
						成果指標		-		目標値													
										達成度		%											
						補足説明																	
						根拠として用いた統計・データ名(出典)		-															
成果目標及び 成果実績2 (アウトカム)		成果目標		-		活動実績		単位		R02年度	R03年度	中間目標年度	目標最終年度										
								成果実績															
						成果指標		-		目標値													
										達成度		%											
						補足説明																	
						根拠として用いた統計・データ名(出典)		-															
成果目標及び 成果実績2 (アウトカム)		成果目標		-		活動実績		単位		R02年度	R03年度	中間目標年度	目標最終年度										
								成果実績															
						成果指標		-		目標値													
										達成度		%											
						補足説明																	
						根拠として用いた統計・データ名(出典)		-															
成果目標及び 成果実績2 (アウトカム)		成果目標		-		活動実績		単位		R02年度	R03年度	中間目標年度	目標最終年度										
								成果実績															
						成果指標		-		目標値													
										達成度		%											
						補足説明																	
						根拠として用いた統計・データ名(出典)		-															
成果目標及び 成果実績2 (アウトカム)		成果目標		-		活動実績		単位		R02年度	R03年度	中間目標年度	目標最終年度										
								成果実績															
						成果指標		-		目標値													
										達成度		%											
						補足説明																	
						根拠として用いた統計・データ名(出典)		-															
成果目標及び 成果実績2 (アウトカム)		成果目標		-		活動実績		単位		R02年度	R03年度	中間目標年度	目標最終年度										
								成果実績															
						成果指標		-		目標値													
										達成度		%											
						補足説明																	
						根拠として用いた統計・データ名(出典)		-															
成果目標及び 成果実績2 (アウトカム)		成果目標		-		活動実績		単位		R02年度	R03年度	中間目標年度	目標最終年度										
								成果実績															
						成果指標		-		目標値													
										達成度		%											
						補足説明																	
						根拠として用いた統計・データ名(出典)		-															
成果目標及び 成果実績2 (アウトカム)		成果目標		-		活動実績		単位		R02年度	R03年度	中間目標年度	目標最終年度										
								成果実績															
						成果指標		-		目標値													
										達成度		%											
						補足説明																	
						根拠として用いた統計・データ名(出典)		-															
成果目標及び 成果実績2 (アウトカム)		成果目標		-		活動実績		単位		R02年度	R03年度	中間目標年度	目標最終年度										
								成果実績															
						成果指標		-		目標値													
										達成度		%											
						補足説明																	
						根拠として用いた統計・データ名(出典)		-															
成果目標及び 成果実績2 (アウトカム)		成果目標		-		活動実績		単位		R02年度	R03年度	中間目標年度	目標最終年度										
								成果実績															
						成果指標		-		目標値													
										達成度		%											
						補足説明																	
						根拠として用いた統計・データ名(出典)		-															
成果目標及び 成果実績2 (アウトカム)		成果目標		-		活動実績		単位		R02年度	R03年度	中間目標年度	目標最終年度										
								成果実績															
						成果指標		-		目標値													
										達成度		%											
						補足説明																	
						根拠として用いた統計・データ名(出典)		-															
成果目標及び 成果実績2 (アウトカム)		成果目標		-		活動実績		単位		R02年度	R03年度	中間目標年度	目標最終年度										
								成果実績															
						成果指標		-		目標値													
										達成度		%											
						補足説明																	
						根拠として用いた統計・データ名(出典)		-															
成果目標及び 成果実績2 (アウトカム)		成果目標		-		活動実績		単位		R02年度	R03年度	中間目標年度	目標最終年度										
								成果実績															
						成果指標		-		目標値													
										達成度		%											
						補足説明																	
						根拠として用いた統計・データ名(出典)		-															
成果目標及び 成果実績2 (アウトカム)		成果目標		-		活動実績		単位		R02年度	R03年度	中間目標年度	目標最終年度										
								成果実績															
						成果指標		-		目標値													
										達成度		%											
						補足説明																	
						根拠として用いた統計・データ名(出典)		-															
成果目標及び 成果実績2 (アウトカム)		成果目標		-		活動実績		単位		R02年度	R03年度	中間目標年度	目標最終年度										
								成果実績															
						成果指標		-		目標値													
										達成度		%											
						補足説明																	
						根拠として用いた統計・データ名(出典)		-															
成果目標及び 成果実績2 (アウトカム)		成果目標		-		活動実績		単位		R02年度	R03年度	中間目標年度	目標最終年度										
								成果実績															
						成果指標		-		目標値													
										達成度		%											
						補足説明																	
						根拠として用いた統計・データ名(出典)		-															
成果目標及び 成果実績2 (アウトカム)		成果目標		-		活動実績		単位		R02年度	R03年度	中間目標年度	目標最終年度										
								成果実績															
						成果指標		-		目標値													
										達成度		%											
						補足説明																	
						根拠として用いた統計・データ名(出典)		-															
成果目標及び 成果実績2 (アウトカム)		成果目標		-		活動実績		単位		R02年度	R03年度	中間目標年度	目標最終年度										
								成果実績															
						成果指標		-		目標値													
										達成度		%											
						補足説明																	
						根拠として用いた統計・データ名(出典)		-															
成果目標及び 成果実績2 (アウトカム)		成果目標		-		活動実績		単位		R02年度	R03年度	中間目標年度	目標最終年度										
								成果実績															
						成果指標		-		目標値													
										達成度		%											
						補足説明																	
						根拠として用いた統計・データ名(出典)		-															
成果目標及び 成果実績2 (アウトカム)		成果目標		-		活動実績		単位		R02年度	R03年度	中間目標年度	目標最終年度										
								成果実績															
						成果指標		-		目標値													
										達成度		%											
						補足説明																	
						根拠として用いた統計・データ名(出典)		-															
成果目標及び 成果実績2 (アウトカム)		成果目標		-		活動実績		単位		R02年度	R03年度	中間目標年度	目標最終年度										
								成果実績															
						成果指標		-		目標値													
										達成度		%											
						補足説明																	
						根拠として用いた統計・データ名(出典)		-															
成果目標及び 成果実績2 (アウトカム)		成果目標		-		活動実績		単位		R02年度	R03年度	中間目標年度	目標最終年度										
								成果実績															
						成果指標		-		目標値													
										達成度		%											
						補足説明																	
						根拠として用いた統計・データ名(出典)		-															
成果目標及び 成果実績2 (アウトカム)		成果目標		-		活動実績		単位		R02年度	R03年度	中間目標年度	目標最終年度										
								成果実績															
						成果指標		-		目標値													
										達成度		%											
						補足説明																	
						根拠として用いた統計・データ名(出典)		-															
成果目標及び 成果実績2 (アウトカム)		成果目標		-		活動実績		単位		R02年度	R03年度	中間目標年度	目標最終年度										
								成果実績															
						成果指標		-		目標値													
										達成度		%											
						補足説明																	
						根拠として用いた統計・データ名(出典)		-															
成果目標及び 成果実績2 (アウトカム)		成果目標		-		活動実績		単位		R02年度	R03年度	中間目標年度	目標最終年度										
								成果実績															
						成果指標		-		目標値													
										達成度		%											
						補足説明																	
						根拠として用いた統計・データ名(出典)		-															
成果目標及び 成果実績2 (アウトカム)		成果目標		-		活動実績		単位		R02年度	R03年度	中間目標年度	目標最終年度										
								成果実績															
						成果指標		-		目標値													
										達成度		%											
						補足説明																	
						根拠として用いた統計・データ名(出典)		-															
成果目標及び 成果実績2 (アウトカム)		成果目標		-		活動実績		単位		R02年度	R03年度	中間目標年度	目標最終年度										
								成果実績															
						成果指標		-		目標値													
										達成度		%											
						補足説明																	
						根拠として用いた統計・データ名(出典)		-															
成果目標及び 成果実績2 (アウトカム)		成果目標		-		活動実績		単位		R02年度	R03年度	中間目標年度	目標最終年度										
								成果実績															

シートNo.	0332109	事務事業名	道路橋梁長寿命化修繕事業			部・課・係	都市建設部	都市整備課	道路係
事業No.	J001074	開始年度	平成23年度	終了予定年度	終了予定なし	施策コード	P1021	作成責任者	都市整備課長

2/2ページ

項 目			令和3年度 事務事業担当課による点検・改善		<参考>令和2年度 事務事業担当課による点検・改善	
事業の必要性	事業の目的は市民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	長寿命化修繕計画は、今後老朽化が進む橋梁の予防的な修繕、計画的な架替を行い、橋梁の長寿命化に伴う維持修繕費用の縮減を図りつつ、道路ネットワークの安全性を確保することを目的としており、社会的ニーズを反映している。		○	長寿命化修繕計画は、今後老朽化が進む橋梁の予防的な修繕、計画的な架替を行い、橋梁の長寿命化に伴う維持修繕費用の縮減を図りつつ、道路ネットワークの安全性を確保することを目的としており、社会的ニーズを反映している。
	地域、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	市が管理する橋梁の維持補修であるため、市で実施する必要がある。		○	市が管理する橋梁の維持補修であるため、市で実施する必要がある。
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。 政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	長寿命化従前計画は、今後老朽化が進む橋梁の予防的な修繕、計画的な架替を行い、橋梁の長寿命化に伴う維持修繕費用の縮減を図りつつ、道路ネットワークの安全性を確保することを目的としており、必要である。		○	長寿命化従前計画は、今後老朽化が進む橋梁の予防的な修繕、計画的な架替を行い、橋梁の長寿命化に伴う維持修繕費用の縮減を図りつつ、道路ネットワークの安全性を確保することを目的としており、必要である。
	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	○	適正な入札により業者が選定され、業務を実施している。		○	適正な入札により業者が選定され、業務を実施している。
事業の効率性	一般競争入札、指名競争入札又は随意契約（プロポーザル）による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	無			無	
	競争性のない随意契約となったものはないか。	無			無	
	受益者との負担関係は妥当であるか。	○	市が管理する橋梁の点検および維持補修であり、市で実施する必要がある。		○	市が管理する橋梁の点検および維持補修であり、市で実施する必要がある。
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	-	橋梁の規模、構造、修繕内容により事業費が異なるためコスト設定は適切ではない。		-	橋梁の規模、構造、修繕内容により事業費が異なるためコスト設定は適切ではない。
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	市が管理する橋梁の点検および維持補修に限定されている。		○	市が管理する橋梁の点検および維持補修に限定されている。
	不用率が大い場合、その理由は妥当か。（理由を右に記載）	○	R2繰越事業費の精算および国庫補助額確定によるもので、妥当である。		-	
	繰越額が大い場合、その理由は妥当か。（理由を右に記載）	○	橋梁の補修は、河川等の水位が低減される時期（農閑期等）に実施する必要があるが、また、適正工期確保のため繰越を行っているものである。		○	橋梁の補修は、河川等の水位が低減される時期（農閑期等）に実施する必要があるが、また、適正工期確保のため繰越を行っているものである。
事業の有効性	その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	○	工事実施において、工事条件・工法・施工内容などにより適切に行われている。		○	工事実施において、工事条件・工法・施工内容などにより適切に行われている。
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	○	小郡市が管理する橋梁（481橋）について、5年サイクルで点検がされるよう計画的に実施している。		○	小郡市が管理する橋梁（481橋）について、5年サイクルで点検がされるよう計画的に実施している。
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	-	点検結果に基づき、状況に応じた工法で実施する事業であり、評価することは適切ではない。		-	点検結果に基づき、状況に応じた工法で実施する事業であり、評価することは適切ではない。
	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	-	市が管理する橋梁を5年サイクルで点検し、評価結果に基づき補修を行うものであり指標設定は適切ではない。		-	市が管理する橋梁を5年サイクルで点検し、評価結果に基づき補修を行うものであり指標設定は適切ではない。
関連事業	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	○	長寿命化従前計画は、今後老朽化が進む橋梁の予防的な修繕、計画的な架替を行い、橋梁の長寿命化に伴う維持修繕費用の縮減を図りつつ、道路ネットワークの安全性を図ることが出来ている。		○	長寿命化従前計画は、今後老朽化が進む橋梁の予防的な修繕、計画的な架替を行い、橋梁の長寿命化に伴う維持修繕費用の縮減を図りつつ、道路ネットワークの安全性を図ることが出来ている。
	関連する事業がある場合、他課等と適切な役割分担を行っているか。（役割分担の具体的な内容を右に記載）					
	課名					
	連番					
事業名						
	点検・改善結果	点検結果	今後老朽化が進む橋梁の予防的な修繕、計画的な架替を行い、橋梁の長寿命化に伴う維持修繕費用の縮減を図りつつ、道路ネットワークの安全性を確保することが必要であることから、今後も計画的に実施する必要がある。		今後老朽化が進む橋梁の予防的な修繕、計画的な架替を行い、橋梁の長寿命化に伴う維持修繕費用の縮減を図りつつ、道路ネットワークの安全性を確保することが必要であることから、今後も計画的に実施する必要がある。	
		改善の方向性	特になし。		特になし。	

事務事業評価シート(令和3年度事務事業)

シートNo.	0332110	事務事業名	道路照明補修事業			部・課・係	都市建設部	都市整備課	道路係
事業No.	J004443	開始年度	令和元年度	終了予定年度	終了予定なし	施策コード	P1021	作成責任者	都市整備課長

事業の目的		老朽化が進む道路照明を総点検した結果を基に、予防保全的な修繕・補修を行うことにより道路照明の長寿命化を図る。							予算額・ 執行額 (単位:千円)	予算 状況	R02年度		R03年度	
											当初予算		4,000	4,000
補正予算		6,000												
前年度から繰越														
翌年度へ繰越														
予備費等		356												
計		10,356	4,000											
執行額		10,356	2,417											
執行率(%)		100%	60%											
事業概要		市が管理する道路照明の長寿命化・予防保全を目的とした維持補修(修繕、建替えなど)								予算内訳 (単位:千円)	歳入予算		R02年度	R03年度
									国庫支出金		5,000	2,000		
県支出金														
使用料・手数料														
分担金・負担金等														
財産収入														
繰入金														
諸収入														
繰越金														
地方債		4,500	1,800											
一般財源		856	200											
計		10,356	4,000											
根拠法令、 関係計画、 通知等									歳出予算		R02年度	R03年度	R03年度の主な使途	
									工事請負費		10,356	4,000		
活動目標及び 活動実績1 (アウトプット)		活動指標	道路照明灯補修件数			単位	R02年度	R03年度						
						活動実績	本	37					2	
				当初見込		-	-	-	-					
活動目標及び 活動実績2 (アウトプット)		活動指標	-			単位	R02年度	R03年度						
						活動実績	-	-					-	-
				当初見込		-	-	-	-					
単位当たり コスト		算出根拠				単位	R02年度	R03年度						
						単位当たり コスト	-	-						
				計算式		X/Y	-							
成果目標及び 成果実績1 (アウトカム)		成果目標	-			単位	R02年度	R03年度	中間目標 年度	目標最終年度 年度				
						成果実績	-	-	-	-				
		成果指標	-			目標値	-	-	-	-				
						達成度	%	-	-	-	-			
		補足説明		-										
		根拠として用いた 統計・データ名(出典)		-										
成果目標及び 成果実績2 (アウトカム)		成果目標				単位	R02年度	R03年度	中間目標 年度	目標最終年度 年度				
						成果実績								
		成果指標				目標値								
						達成度	%							
		補足説明												
		根拠として用いた 統計・データ名(出典)												
成果目標及び 成果実績2 (アウトカム)		成果目標				人件費合計(千円)						740	740	
						総費用(千円)						11,096	3,157	
		成果指標				人件費等の修正(千円)								
						総費用(千円)※人件費等修正後						11,096	3,157	
		補足説明												
		根拠として用いた 統計・データ名(出典)												

シートNo.	0332110	事務事業名	道路照明補修事業			部・課・係	都市建設部	都市整備課	道路係
事業No.	J004443	開始年度	令和元年度	終了予定年度	終了予定なし	施策コード	P1021	作成責任者	都市整備課長

項 目			令和3年度 事務事業担当課による点検・改善			<参考>令和2年度 事務事業担当課による点検・改善		
			評価	評価に関する説明		評価	評価に関する説明	
事業の必要性	事業の目的は市民や社会のニーズを的確に反映しているか。		○	長寿命化修繕計画は、今後老朽化が進む道路照明の予防的な修繕、計画的な建替えを行い、道路照明の長寿命化に伴う維持修繕費用の縮減を図りつつ、道路ネットワークの安全性を確保することを目的としており、社会的ニーズを反映している。		○	長寿命化修繕計画は、今後老朽化が進む道路照明の予防的な修繕、計画的な建替えを行い、道路照明の長寿命化に伴う維持修繕費用の縮減を図りつつ、道路ネットワークの安全性を確保することを目的としており、社会的ニーズを反映している。	
	地域、民間等に委ねることができない事業なのか。		○	市が管理する道路照明の維持補修であるため、市で実施する必要がある。		○	市が管理する道路照明の維持補修であるため、市で実施する必要がある。	
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。 政策体系の中で優先度の高い事業か。		○	長寿命化修繕計画は、今後老朽化が進む道路照明の予防的な修繕、計画的な建替えを行い、道路照明の長寿命化に伴う維持修繕費用の縮減を図りつつ、道路ネットワークの安全性を確保することを目的としており、適切な事業である。		○	長寿命化修繕計画は、今後老朽化が進む道路照明の予防的な修繕、計画的な建替えを行い、道路照明の長寿命化に伴う維持修繕費用の縮減を図りつつ、道路ネットワークの安全性を確保することを目的としており、適切な事業である。	
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。		○	適正な入札により業者が選定され、業務を実施している。		○	適正な入札により業者が選定され、業務を実施している。	
	一般競争入札、指名競争入札又は随意契約（プロポーザル）による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。		無			無		
	競争性のない随意契約となったものはないか。		無			無		
	受益者との負担関係は妥当であるか。		○	市が管理する道路照明の維持補修であり、市で実施する必要がある。		○	市が管理する道路照明の維持補修であり、市で実施する必要がある。	
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。		－	道路照明の規模、構造、修繕内容により事業費が異なるためコスト設定は適切ではない。		－	道路照明の規模、構造、修繕内容により事業費が異なるためコスト設定は適切ではない。	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		○	市が管理する道路照明の維持補修であり、市で実施する必要がある。		○	市が管理する道路照明の維持補修であり、市で実施する必要がある。	
	不用率が大い場合、その理由は妥当か。（理由を右に記載）		○	事業h確定に伴うものであり、妥当である。		－	特になし。	
	繰越額が大い場合、その理由は妥当か。（理由を右に記載）		－	特になし。		－	特になし。	
	その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。		○	工事実施において、工事条件・工法・施工内容などにより適切に行われている。		○	工事実施において、工事条件・工法・施工内容などにより適切に行われている。	
事業の有効性	活動実績は見込みに見合ったものであるか。		－	点検結果に基づき、状況に応じた工法で実施する事業であり、評価することは適切ではない。		－	点検結果に基づき、状況に応じた工法で実施する事業であり、評価することは適切ではない。	
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。		－	点検結果に基づき、状況に応じた工法で実施する事業であり、評価することは適切ではない。		－	点検結果に基づき、状況に応じた工法で実施する事業であり、評価することは適切ではない。	
	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。		－	点検結果に基づき、状況に応じた工法で実施する事業であり、評価することは適切ではない。		－	点検結果に基づき、状況に応じた工法で実施する事業であり、評価することは適切ではない。	
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。		○	長寿命化修繕計画は、今後老朽化が進む道路照明の予防的な修繕、計画的な架替を行い、道路照明の長寿命化に伴う維持修繕費用の縮減を図りつつ、道路ネットワークの安全性を図ることが出来ている。		○	長寿命化修繕計画は、今後老朽化が進む道路照明の予防的な修繕、計画的な架替を行い、道路照明の長寿命化に伴う維持修繕費用の縮減を図りつつ、道路ネットワークの安全性を図ることが出来ている。	
関連事業	関連する事業がある場合、他課等と適切な役割分担を行っているか。（役割分担の具体的な内容を右に記載）							
	課名							
	連番							
	事業名							
	点検・改善結果	点検結果		今後も老朽化が進む道路照明の予防的な修繕、計画的な修繕を行い、道路照明の長寿命化に伴う維持修繕費用の縮減を図りつつ、道路ネットワークの安全性を確保することが必要であることから、今後も計画的に実施する必要がある。			今後も老朽化が進む道路照明の予防的な修繕、計画的な修繕を行い、道路照明の長寿命化に伴う維持修繕費用の縮減を図りつつ、道路ネットワークの安全性を確保することが必要であることから、今後も計画的に実施する必要がある。	
		改善の方向性		特になし。			特になし。	

事務事業評価シート(令和3年度事務事業)

シートNo.	0332111	事務事業名	道路維持・補修事業(工事・修繕)		部・課・係	都市建設部	都市整備課	道路係
事業No.	J001067	開始年度	不明	終了予定年度	終了予定なし	施策コード	P1021	作成責任者 都市整備課長

事業の目的		道路の安全な交通環境を確保するため、道路施設全般の機能維持を図る。							予算額・ 執行額 (単位:千円)	予算 状況	R02年度		R03年度		
事業概要		道路利用者の安全性及び利便性の向上を図ることを目的とし、市内の生活道路を整備する事業									当初予算	50,000	34,400		
											補正予算	▲ 87	5,000		
											前年度から繰越		2,310		
											翌年度へ繰越	▲ 2,310	▲ 4,900		
											予備費等	▲ 2,307	2,776		
											計	45,296	39,586		
根拠法令、 関係計画、 通知等		道路法							執行額	45,295	30,920				
									執行率(%)	100%	78%				
活動目標及び 活動実績1 (アウトプット)		活動指標	道路維持工事発注件数	活動実績 当初見込	単位	R02年度	R03年度	R04年度 活動見込	R05年度 活動見込	予算内訳 (単位:千円)	歳入予算	R02年度	R03年度		R03年度の主な収入内訳(名称等)
					件	14	6				国庫支出金				
					件	14	6				県支出金				
		活動実績	-	52	47			使用料・手数料							
		当初見込	-	-	-			分担金・負担金等	6,657						
活動目標及び 活動実績2 (アウトプット)		活動指標	道路維持修繕発注件数	活動実績 当初見込	単位	R02年度	R03年度	R04年度 活動見込	R05年度 活動見込	財産収入					
					件	52	47			繰入金					
					件	52	47			諸収入					
		活動実績	-	-	-			繰越金							
		当初見込	-	-	-			地方債	12,004	7,900					
単位当たり コスト		算出根拠		単位当たり コスト	単位	R02年度	R03年度			一般財源	26,635	31,686			
					計算式	X/Y	-			計	45,296	39,586			
										歳出予算	R02年度	R03年度	R03年度の主な使途		
		成果目標及び 成果実績1 (アウトカム)	成果目標	-	成果実績 目標値 達成度	単位	R02年度	R03年度	中間目標 年度	目標最終年度 年度	需要費	27,499	30,776		
						件	-	-	-	-	工事請負費	17,797	8,810		
件	-					-	-	-							
成果目標及び 成果実績2 (アウトカム)	成果指標		-	目標値 達成度	単位	R02年度	R03年度	中間目標 年度	目標最終年度 年度						
					件	-	-	-	-						
		件			-	-	-	-							
	補足説明		-							計	45,296	39,586			
	根拠として用いた 統計・データ名(出典)		-							投入工数 (単位:人)	正職員	0.8	0.8		
成果目標及び 成果実績1 (アウトカム)		成果目標	-	成果実績 目標値 達成度	単位	R02年度	R03年度	中間目標 年度	目標最終年度 年度		再任用	0	0		
					件	-	-	-	-		会計年度月額	0	0		
					件	-	-	-	-		会計年度日額	0	0		
					件	-	-	-	-		計	0.80	0.80		
補足説明		-							人件費合計(千円)	5,920	5,920				
根拠として用いた 統計・データ名(出典)		-							総費用(千円)	51,215	36,840				
成果目標及び 成果実績2 (アウトカム)		成果目標	-	成果実績 目標値 達成度	単位	R02年度	R03年度	中間目標 年度	目標最終年度 年度	人件費等の修正(千円)					
					件	-	-	-	-	総費用(千円)※人件費等修正後	51,215	36,840			
					件	-	-	-	-						
					件	-	-	-	-						

シートNo.	0332111	事務事業名	道路維持・補修事業(工事・修繕)		部・課・係	都市建設部	都市整備課	道路係
事業No.	J001067	開始年度	不明	終了予定年度	終了予定なし	施策コード	P1021	作成責任者 都市整備課長

項 目			令和3年度 事務事業担当課による点検・改善		<参考>令和2年度 事務事業担当課による点検・改善	
			評価	評価に関する説明	評価	評価に関する説明
事業の必要性	事業の目的は市民や社会のニーズを的確に反映しているか。		○	道路維持工事は、地元からも要望されており、反映されている。	○	道路維持工事は、地元からも要望されており、反映されている。
	地域、民間等に委ねることができない事業なのか。		○	市が管理する道路の維持補修であるため、市で実施する必要がある。	○	市が管理する道路の維持補修であるため、市で実施する必要がある。
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。 政策体系の中で優先度の高い事業か。		○	市が管理する道路の利用者の安全性及び利便性の向上を図ることを目的としており、必要である。	○	市が管理する道路の利用者の安全性及び利便性の向上を図ることを目的としており、必要である。
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。		○	適正な入札により業者が選定され、工事を実施している。なお、修繕料については、3者見積により業者が選定され、修繕を実施している。なお、緊急的に行うものについては、一者随意契約であるが、金額の精査を行い適正な金額で支出している。	○	適正な入札により業者が選定され、工事を実施している。なお、修繕料については、3者見積により業者が選定され、修繕を実施している。なお、緊急的に行うものについては、一者随意契約であるが、金額の精査を行い適正な金額で支出している。
	一般競争入札、指名競争入札又は随意契約(プロポーザル)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	無			無	
	競争性のない随意契約となったものはないか。	有			有	
	受益者との負担関係は妥当であるか。	-		市が管理する道路の維持補修であり、市で実施する必要がある。	-	市が管理する道路の維持補修であり、市で実施する必要がある。
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	-		道路維持補修には、様々な内容があるため、個々に工事内容(事業費)が異なるため、コストを算出することが適切ではない。	-	道路維持補修には、様々な内容があるため、個々に工事内容(事業費)が異なるため、コストを算出することが適切ではない。
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○		道路の維持補修のために限定されている。	○	道路の維持補修のために限定されている。
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	○		事業費の精算および現地精査の結果、計画を次年度へ変更したもので妥当である。(施工内容の変更)	-	特になし。
	繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	○		適正工期確保のための繰越であり、妥当である。	-	特になし。
事業の有効性	その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	○		工事実施において、工事条件・工法・施工内容などにより適切に行われている。	○	工事実施において、工事条件・工法・施工内容などにより適切に行われている。
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	-		道路維持工事は、地元要望により実施しており、また、修繕においても状況に応じ、実施するものであるため活動見込みを立てることが困難である。	-	道路維持工事は、地元要望により実施しており、また、修繕においても状況に応じ、実施するものであるため活動見込みを立てることが困難である。
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	○		工事実施において、工事条件・工法・施工内容などにより適切に行われている。	○	工事実施において、工事条件・工法・施工内容などにより適切に行われている。
	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	-		道路維持工事は、地元要望により実施しており、また、修繕においても状況に応じ、実施するものであるため成果目標を立てることが困難である。	-	道路維持工事は、地元要望により実施しており、また、修繕においても状況に応じ、実施するものであるため成果目標を立てることが困難である。
関連事業	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	○		道路維持補修が実施されることにより、安全性・利便性の向上が図られている。	○	道路維持補修が実施されることにより、安全性・利便性の向上が図られている。
	関連する事業がある場合、他課等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を右に記載)					
	課名					
	連番					
点検・改善結果	点検結果			今後も状況に応じた生活道路の整備を行い、道路施設全般の機能維持を図りつつ、道路利用者の安全性及び利便性の向上に努める。		今後も状況に応じた生活道路の整備を行い、道路施設全般の機能維持を図りつつ、道路利用者の安全性及び利便性の向上に努める。
	改善の方向性			特になし		特になし

事務事業評価シート(令和3年度事務事業)

シートNo.	0332112□	事務事業名	一般公共土木災害の調査及び復旧事業		部・課・係	都市建設部	都市整備課	道路係、河川治水・管理係	
事業No.	J000376	開始年度	不明	終了予定年度	終了予定なし	施策コード	P1021	作成責任者	都市整備課長、河川治水統括主幹

事業の目的		災害箇所速やかな復旧を図り、もって公共の福祉を確保する。						予算額・ 執行額 (単位:千円)	R2年度		R3年度			
事業概要	災害により被災した公共土木施設を復旧する事業である。 ※一般公共土木災害(国費・地方債)は、事業費確定後に精算がなされるため、予算内訳には、執行額の内訳を記載	根拠法令、 関係計画、 通知等	公共土木施設災害復旧事業費国庫負担法						予算状況	当初予算	500	500		
										補正予算	13,304	35,292		
										前年度から繰越	19,600	6,500		
										翌年度へ繰越	▲ 6,500	▲ 27,472		
										予備費等		4,143		
活動目標及び 活動実績1 (アウトプット)	活動目標	工事件数		単位	R02年度	R03年度	R04年度 活動見込	R05年度 活動見込	執行額	21,791		16,596		
										執行率(%)		81%		
										81%		88%		
										歳入予算		R2年度	R3年度	
										R3年度の主な収入内訳(名称等)				
活動目標及び 活動実績2 (アウトプット)	活動目標	修繕件数		単位	R02年度	R03年度	R04年度 活動見込	R05年度 活動見込	国庫支出金	5,662		3,293	災害復旧費負担金	
										県支出金				
										使用料・手数料				
										分担金・負担金等				
										財産収入				
単位当たり コスト	算出根拠	被災した公共土木施設および復旧工法により、工事費が異なるため、コスト設定は適切ではない。		単位当たり コスト	-	-			繰入金	102		55	災害対策基金繰入金	
										諸収入				
										繰越金				
										地方債		15,100	9,500	
										一般財源		927	3,748	
成果目標及び 成果実績1 (アウトカム)	成果目標	-		単位	R02年度	R03年度	中間目標 年度	目標最終年度 年度	計	21,791		16,596		
										歳出予算		R2年度	R3年度	
										R3年度の主な使途				
										旅費		5		
										需用費		7,297	10,160	
成果目標及び 成果実績2 (アウトカム)	成果目標	-		単位	R02年度	R03年度	中間目標 年度	目標最終年度 年度	計	21,791		16,596		
										役務費				
										工事請負費		14,489	6,436	
成果目標及び 成果実績1 (アウトカム)	成果目標	-		単位	R02年度	R03年度	中間目標 年度	目標最終年度 年度	計	21,791		16,596		
										正職員		0.2	0.2	
										再任用		0	0	
										会計年度月額		0	0	
										会計年度日額		0	0	
成果目標及び 成果実績2 (アウトカム)	成果目標	-		単位	R02年度	R03年度	中間目標 年度	目標最終年度 年度	計	0.20		0.20		
										人件費合計(千円)		1,480	1,480	
										総費用(千円)		23,271	18,076	
										人件費等の修正(千円)				
										総費用(千円)※人件費等修正後		23,271	18,076	
成果目標及び 成果実績1 (アウトカム)	成果目標	-		単位	R02年度	R03年度	中間目標 年度	目標最終年度 年度	計	0.20		0.20		
										成果実績				
										目標値				
										達成度		%		
成果目標及び 成果実績2 (アウトカム)	成果目標	-		単位	R02年度	R03年度	中間目標 年度	目標最終年度 年度	計	0.20		0.20		
										目標値				
										達成度		%		
成果目標及び 成果実績1 (アウトカム)	成果目標	-		単位	R02年度	R03年度	中間目標 年度	目標最終年度 年度	計	0.20		0.20		
										目標値				
										達成度		%		
成果目標及び 成果実績2 (アウトカム)	成果目標	-		単位	R02年度	R03年度	中間目標 年度	目標最終年度 年度	計	0.20		0.20		
										目標値				
										達成度		%		
成果目標及び 成果実績1 (アウトカム)	成果目標	-		単位	R02年度	R03年度	中間目標 年度	目標最終年度 年度	計	0.20		0.20		
										目標値				
										達成度		%		
成果目標及び 成果実績2 (アウトカム)	成果目標	-		単位	R02年度	R03年度	中間目標 年度	目標最終年度 年度	計	0.20		0.20		
										目標値				
										達成度		%		
成果目標及び 成果実績1 (アウトカム)	成果目標	-		単位	R02年度	R03年度	中間目標 年度	目標最終年度 年度	計	0.20		0.20		
										目標値				
										達成度		%		
成果目標及び 成果実績2 (アウトカム)	成果目標	-		単位	R02年度	R03年度	中間目標 年度	目標最終年度 年度	計	0.20		0.20		
										目標値				
										達成度		%		
成果目標及び 成果実績1 (アウトカム)	成果目標	-		単位	R02年度									

シートNo.	0332112□	事務事業名	一般公共土木災害の調査及び復旧事業		部・課・係	都市建設部	都市整備課	道路係、河川治水・管理係	
事業No.	J000376	開始年度	不明	終了予定年度	終了予定なし	施策コード	P1021	作成責任者	都市整備課長、河川治水統括主幹

項 目			令和3年度 事務事業担当課による点検・改善		<参考>令和2年度 事務事業担当課による点検・改善	
			評価	評価に関する説明	評価	評価に関する説明
事業の必要性	事業の目的は市民や社会のニーズを的確に反映しているか。		○	被災した公共土木災害の調査及び復旧工事を実施し、公共の福祉の確保に努めている。	○	被災した公共土木災害の調査及び復旧工事を実施し、公共の福祉の確保に努めている。
	地域、民間等に委ねることができない事業なのか。		○	被災した公共土木災害の調査及び復旧であり、市で実施する必要がある。	○	被災した公共土木災害の調査及び復旧であり、市で実施する必要がある。
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。 政策体系の中で優先度の高い事業か。		○	被災した公共土木災害の調査及び復旧工事を実施し、公共の福祉の確保に努めるために必要不可欠である。	○	被災した公共土木災害の調査及び復旧工事を実施し、公共の福祉の確保に努めるために必要不可欠である。
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。 一般競争入札、指名競争入札又は随意契約（プロポーザル）による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。 競争性のない随意契約となったものはないか。	○	無	適正な入札により業者が選定され、工事を実施している。なお、修繕料については、緊急的に行うものであり、一者随意契約であるが、金額の精査を行い適正な金額で支出している。	○	適正な入札により業者が選定され、工事を実施している。なお、修繕料については、緊急的に行うものであり、一者随意契約であるが、金額の精査を行い適正な金額で支出している。
		有			有	
		－			－	
	受益者との負担関係は妥当であるか。		－	被災した公共土木施設の復旧を行うものであり、評価することは適切ではない。	－	被災した公共土木施設の復旧を行うものであり、評価することは適切ではない。
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。		－	被災した公共土木施設および復旧工法により、事業内容・事業費が異なるため、コストを算出することが適切ではない。	－	被災した公共土木施設および復旧工法により、事業内容・事業費が異なるため、コストを算出することが適切ではない。
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		○	被災した公共土木災害の調査及び復旧工事を実施する事業目的に限られている。	○	被災した公共土木災害の調査及び復旧工事を実施する事業目的に限られている。
	不用率が大い場合、その理由は妥当か。（理由を右に記載）		－	災害発生後に目視など確認できる内容に基づき、予算を計上しているため、実施段階で事業費見込と異なる場合もあるため。	－	災害発生後に目視など確認できる内容に基づき、予算を計上しているため、実施段階で事業費見込と異なる場合もあるため。
	繰越額が大い場合、その理由は妥当か。（理由を右に記載）		○	河川災害の場合、水位が低減する非出水期に工事を実施する必要があり、適正工期確保のため繰越を行っている。	○	河川災害の場合、水位が低減する農閑期に工事を実施する必要があり、適正工期確保のため繰越を行っている。
	その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。		○	適正な入札により業者が選定され、工事を実施している。	○	適正な入札により業者が選定され、工事を実施している。
事業の有効性	活動実績は見込みに見合ったものであるか。		－	被災した公共土木施設の復旧を行う事業であり、活動見込を設定することは適切ではない。	－	被災した公共土木施設の復旧を行う事業であり、活動見込を設定することは適切ではない。
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。		－	被災した公共土木施設の復旧を行うものであり、評価することは適切ではない。	－	被災した公共土木施設の復旧を行うものであり、評価することは適切ではない。
	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。		－	被災した公共土木施設の復旧を行う事業であり、成果目標を設定することは適切ではない。	－	被災した公共土木施設の復旧を行う事業であり、成果目標を設定することは適切ではない。
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。		○	被災した公共土木災害の調査及び復旧工事を実施し、公共の福祉の確保されている。	○	被災した公共土木災害の調査及び復旧工事を実施し、公共の福祉の確保されている。
関連事業	関連する事業がある場合、他課等と適切な役割分担を行っているか。（役割分担の具体的な内容を右に記載）					
	課名					
	連番					
	事業名					
点検・改善結果	点検結果		今後も公共土木施設が被災した際には、災害箇所の手やかな復旧を図り、もって公共の福祉を確保するよう努める。		今後も公共土木施設が被災した際には、災害箇所の手やかな復旧を図り、もって公共の福祉を確保するよう努める。	
	改善の方向性		特になし		特になし	

事務事業評価シート(令和3年度事務事業)

シートNo.	0332201	事務事業名	排水路整備事業(工事・修繕)		部・課・係	都市建設部	都市整備課	河川治水・管理係		
事業No.	J001068	開始年度	不明	終了予定年度	終了予定なし	施策コード	P3033	作成責任者	河川治水統括主幹	1/2ページ

事業の目的		素掘り水路箇所の整備工事や適正な水路の維持管理の実施により、清潔で安全な住環境を保つ。							予算額・ 執行額 (単位:千円)	予算 状況	R02年度		R03年度			
事業概要		清潔で安全な住環境を保つため、素掘りの水路のコンクリート化等の排水路整備工事を行う。									当初予算		4,000	12,500		
											補正予算					970
											前年度から繰越					
									翌年度へ繰越				▲ 6,897			
根拠法令、 関係計画、 通知等									予備費等				▲ 346			
									計		4,000		6,227			
									執行額		3,865		4,717			
									執行率(%)		97%		76%			
活動目標及び 活動実績1 (アウトプット)		活動指標		排水路整備工事件数		活動実績 当初見込		単位	R02年度	R03年度	R04年度 活動見込	R05年度 活動見込				
								件	2	1						
								-	-	-	-	-				
								-	-	-	-	-				
活動目標及び 活動実績2 (アウトプット)		活動指標		排水路修繕件数		活動実績 当初見込		単位	R02年度	R03年度	R04年度 活動見込	R05年度 活動見込				
								件	6	7						
								-	-	-	-	-				
								-	-	-	-	-				
単位当たり コスト		算出根拠		単位当たり コスト 計算式		単位	R02年度	R03年度								
						-	-	-								
						X/Y	-	-								
						-	-	-								
成果目標及び 成果実績1 (アウトカム)		成果目標		-		成果実績		単位	R02年度	R03年度	中間目標 年度	目標最終年度 年度				
								-	-	-	-	-				
		成果指標		-		目標値 達成度		-	-	-	-	-				
								-	-	-	-	-				
		補足説明		工事及び修繕において、工事内容・工事条件・工法等により、費用が異なるため、定量的な目標が設定できない。							計			4,000	6,227	
成果目標及び 成果実績2 (アウトカム)		根拠として用いた 統計・データ名(出典)		-		成果実績 目標値 達成度		単位	R02年度	R03年度	中間目標 年度	目標最終年度 年度				
								-	-	-	-	-				
								-	-	-	-	-				
								-	-	-	-	-				
成果目標及び 成果実績2 (アウトカム)		補足説明									投入工数 (単位:人)		正職員	0.1	0.1	
											再任用		0	0		
											会計年度月額		0	0		
											会計年度日額		0	0		
成果目標及び 成果実績2 (アウトカム)		根拠として用いた 統計・データ名(出典)									計		0.10	0.10		
											人件費合計(千円)		740	740		
											総費用(千円)		4,605	5,457		
											人件費等の修正(千円)					
成果目標及び 成果実績2 (アウトカム)		補足説明									総費用(千円)※人件費等修正後		4,605	5,457		

シートNo.	0332201	事務事業名	排水路整備事業(工事・修繕)		部・課・係	都市建設部	都市整備課	河川治水・管理係	
事業No.	J001068	開始年度	不明	終了予定年度	終了予定なし	施策コード	P3033	作成責任者	河川治水統括主幹

項 目			令和3年度 事務事業担当課による点検・改善		<参考>令和2年度 事務事業担当課による点検・改善	
事業の必要性	事業の目的は市民や社会のニーズを的確に反映しているか。	評価	評価に関する説明		評価	評価に関する説明
	地域、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	排水路整備工事は、地元からも要望されているとともに、近年の豪雨による水路施設の災害を予防する事業のため、ニーズは高い。		○	排水路整備工事は、地元からも要望されており、反映されている。
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	市が管理する排水路の工事・修繕であるため、市で実施する必要がある。		○	市が管理する排水路の工事・修繕であるため、市で実施する必要がある。
	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	○	市が管理する排水路を整備することで、清潔で安全な住環境を保つため、優先度は高い。		○	市が管理する排水路の清潔で安全な住環境を保つための事業であり、必要である。
事業の効率性	一般競争入札、指名競争入札又は随意契約(プロポーザル)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	無	適正な入札により業者が選定され、工事を実施している。なお、修繕料については、3者見積により業者が選定され、修繕を実施している。なお、緊急的に行うものについては、一者随意契約であるが、金額の精査を行い適正な金額で支出している。		無	適正な入札により業者が選定され、工事を実施している。なお、修繕料については、3者見積により業者が選定され、修繕を実施している。なお、緊急的に行うものについては、一者随意契約であるが、金額の精査を行い適正な金額で支出している。
	競争性のない随意契約となったものはないか。	有			有	
	受益者との負担関係は妥当であるか。	○	市が管理する排水路の整備・修繕であり、市で実施する必要がある。		○	市が管理する排水路の整備・修繕であり、市で実施する必要がある。
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	-	排水路整備・修繕には、様々な内容があり、個々に工事内容(事業費)が異なるため、コストを算出することが適切ではない。		-	排水路整備・修繕には、様々な内容があり、個々に工事内容(事業費)が異なるため、コストを算出することが適切ではない。
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	水路の維持補修のために限定されている。		○	道路の維持補修のために限定されている。
	不用率が大い場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	特になし。		-	特になし。
	繰越額が大い場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	○	繰越をした工事は、県発注工事(河川工事)と同時に行う必要があり、工事期間の調整を行ったものであるため妥当である。		-	特になし。
	その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	○	工事実施において、工事条件・工法・施工内容などにより適切に行われている。		○	工事実施において、工事条件・工法・施工内容などにより適切に行われている。
事業の有効性	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	-	排水路整備は、地元要望により実施しており、また、修繕においても状況に応じ、実施するものであるため活動見込みを立てることが困難である。		-	排水路整備は、地元要望により実施しており、また、修繕においても状況に応じ、実施するものであるため活動見込みを立てることが困難である。
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	○	工事実施において、工事条件・工法・施工内容などにより適切に行われている。		○	工事実施において、工事条件・工法・施工内容などにより適切に行われている。
	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	-	排水路整備は、地元要望により実施しており、また、修繕においても状況に応じ、実施するものであるため活動見込みを立てることが困難である。		-	排水路整備は、地元要望により実施しており、また、修繕においても状況に応じ、実施するものであるため活動見込みを立てることが困難である。
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	○	排水路整備・修繕が実施されることにより、清潔で安全な住環境を保たれている。		○	排水路整備・修繕が実施されることにより、清潔で安全な住環境を保たれている。
関連事業	関連する事業がある場合、他課等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を右に記載)					
	課名					
	連番					
	事業名					
点検・改善結果	点検結果		今後も状況に応じた排水路の整備を行い、素掘り水路箇所の整備工事や適正な水路の維持管理の実施により、清潔で安全な住環境を保つよう努める。		今後も状況に応じた排水路の整備を行い、今後も素掘り水路箇所の整備工事や適正な水路の維持管理の実施により、清潔で安全な住環境を保つよう努める。	
	改善の方向性		特になし		特になし	

事務事業評価シート(令和3年度事務事業)

シートNo.	0332202	事務事業名	河川維持補修事業		部・課・係	都市建設部	都市整備課	河川治水・管理係
事業No.	J000375	開始年度	不明	終了予定年度	終了予定なし	施策コード	P3033	作成責任者 河川治水統括主幹

事業の目的	市営河川の護岸整備・修繕や浚渫を行い、河川災害の発生を予防し、災害の拡大を防止するため。								予算額・ 執行額 (単位:千円)	予算 状況	当初予算	23,144	8,745	
事業概要	市河川の護岸修繕及び浚渫										補正予算	4,971	13,000	
											前年度から繰越	19,827	14,832	
											翌年度へ繰越	▲ 14,832	▲ 13,000	
											予備費等			
											計	33,110	23,577	
											執行額	33,059	19,603	
根拠法令、 関係計画、 通知等	河川法								執行率(%)	99.8%	83%			
									歳入予算	R02年度	R03年度	R03年度の主な収入内訳(名称等)		
									国庫支出金					
									県支出金					
									使用料・手数料					
									分担金・負担金等					
活動目標及び 活動実績1 (アウトプット)	活動指標	工事件数		単位	R02年度	R03年度	R04年度 活動見込	R05年度 活動見込	財産収入					
			活動実績	件	2	4			繰入金					
			当初見込	-	-	-	-	-	繰越金					
	活動目標及び 活動実績2 (アウトプット)	活動指標	修繕件数(浚渫含む)		単位	R02年度	R03年度	R04年度 活動見込	R05年度 活動見込	諸収入				
				活動実績	件	9	7			地方債	31,200	21,800	緊急自然災害防止対策事業債、緊急浚渫推進事業債	
当初見込				-	-	-	-	-	一般財源	1,910	1,777			
算出根拠				単位	R02年度	R03年度	計		33,110	23,577				
単位当たり コスト		工事、修繕および浚渫において、工事条件・工法・内容などにより工事費が異なるため、コスト設定は適切ではない。		単位当たり コスト	-	-	-							
	計算式			X/Y	-	-								
	成果目標及び 成果実績1 (アウトカム)	成果目標	-		単位	R02年度	R03年度	中間目標 年度	目標最終年度 年度					
成果指標		-	成果実績	-	-	-	-	-						
			目標値	-	-	-	-	-						
			達成度	%	-	-	-	-	-					
補足説明		本事業は、工事内容・工事条件・工法等により工事費が異なるため、定量的な目標が設定できない。												
根拠として用いた統計・データ名(出典)		-												
成果目標及び 成果実績2 (アウトカム)	成果目標			単位	R02年度	R03年度	中間目標 年度	目標最終年度 年度	投入工数 (単位:人)	正職員	0.1	0.1		
			成果実績							再任用	0	0		
			目標値							会計年度月額	0	0		
	成果指標		達成度	%					会計年度日額	0	0			
											計	0.10		0.10
											人件費合計(千円)	740		740
	補足説明										総費用(千円)			33,799
根拠として用いた統計・データ名(出典)										人件費等の修正(千円)				
										総費用(千円)※人件費等修正後		33,799		20,343

シートNo.	0332202	事務事業名	河川維持補修事業		部・課・係	都市建設部	都市整備課	河川治水・管理係	
事業No.	J000375	開始年度	不明	終了予定年度	終了予定なし	施策コード	P3033	作成責任者	河川治水統括主幹

項 目			令和3年度 事務事業担当課による点検・改善		<参考>令和2年度 事務事業担当課による点検・改善	
			評価	評価に関する説明	評価	評価に関する説明
事業の必要性	事業の目的は市民や社会のニーズを的確に反映しているか。		○	河川災害の発生を予防し、災害の拡大を防止するためであり、適切である。	○	河川災害の発生を予防し、災害の拡大を防止するためであり、適切である。
	地域、民間等に委ねることができない事業なのか。		○	市が管理する河川維持のためであり、市で実施する必要がある。	○	市が管理する河川維持のためであり、市で実施する必要がある。
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。 政策体系の中で優先度の高い事業か。		○	河川災害の発生を予防し、災害の拡大を防止するためであり、適切である。	○	河川災害の発生を予防し、災害の拡大を防止するためであり、適切である。
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。		○	適正な入れにより業者が選定され、工事を実施している。また、修繕については、3者見積により業者が選定され、修繕を実施している。なお、緊急的に行うものについては、一者随意契約であるが、金額の精査を行い適正な金額で支出している。	○	適正な入れにより業者が選定され、工事を実施している。また、修繕については、3者見積により業者が選定され、修繕を実施している。なお、緊急的に行うものについては、一者随意契約であるが、金額の精査を行い適正な金額で支出している。
	一般競争入札、指名競争入札又は随意契約（プロポーザル）による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	無			無	
	競争性のない随意契約となったものはないか。	有			有	
	受益者との負担関係は妥当であるか。		○	市が管理する河川維持のためであり、市で実施する必要がある。	○	市が管理する河川維持のためであり、市で実施する必要がある。
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	-		修繕および浚渫において、工事条件・工法・施工内容などにより事業費が異なるため、コスト設定は適切ではない。	-	修繕および浚渫において、工事条件・工法・施工内容などにより事業費が異なるため、コスト設定は適切ではない。
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		○	河川災害の発生を予防し、災害の拡大を防止するために限定されている。	○	河川災害の発生を予防し、災害の拡大を防止するために限定されている。
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。（理由を右に記載）	-		特になし。	-	特になし。
	繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。（理由を右に記載）		○	河川内の工事・浚渫・修繕は、水位が低減する非出水期に実施する必要があるが、繰越がある場合は、適正工期確保に努めている。	○	河川の浚渫・修繕は、水位が低減する農閑期に工事を実施する必要があるが、繰越がある場合は、適正工期確保のために行っている。
	その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。		○	工事、修繕および浚渫において、工事条件・工法・施工内容などにより適切に行われている。	○	修繕および浚渫において、工事条件・工法・施工内容などにより適切に行われている。
事業の有効性	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	-		現場状況に応じ、工事箇所・工法を選定し実施する事業であり、活動見込を設定することは適切ではない。	-	現場状況に応じ、工事箇所・工法を選定し実施する事業であり、活動見込を設定することは適切ではない。
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。		○	工事、修繕および浚渫において、工事条件・工法・施工内容などにより適切に行われている。	○	修繕および浚渫において、工事条件・工法・施工内容などにより適切に行われている。
	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	-		成果目標を設定することは適切ではない。	-	成果目標を設定することは適切ではない。
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。		○	河川災害の発生を予防し、災害の拡大を防止するため活用されている。	○	河川災害の発生を予防し、災害の拡大を防止するため活用されている。
関連事業	関連する事業がある場合、他課等と適切な役割分担を行っているか。（役割分担の具体的な内容を右に記載）					
	課名					
	連番					
	事業名					
点検・改善結果	点検結果			今後も状況に応じた市営河川の護岸整備・修繕や浚渫を行い、河川災害の発生を予防し、災害の拡大の防止に努める。		今後も状況に応じた市営河川の護岸整備・修繕や浚渫を行い、河川災害の発生を予防し、災害の拡大の防止に努める。
	改善の方向性			特になし		特になし